

(様式4-2) (用紙寸法は、日本工業規格A列4とする。)

# 成 果 報 告 書

## 1. 実証研究組織の構成

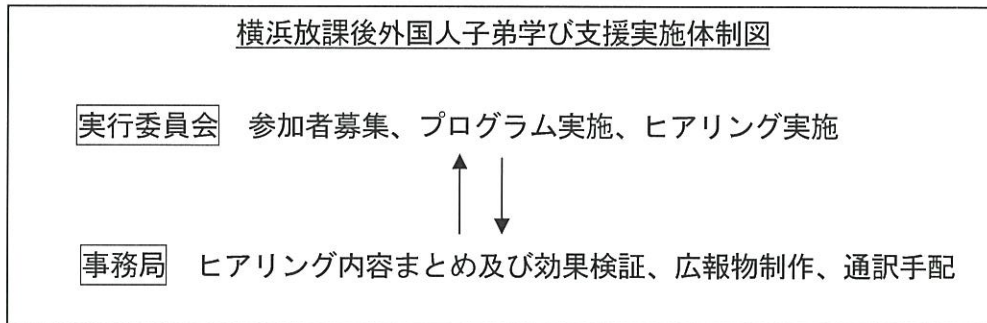
氏 名	所 属 ・ 役 職 等	備 考 欄
吉田 博彦	NPO 教育支援協会 代表理事	実行委員長
大下 裕子	横浜市立日枝小学校 放課後キッズクラブ 主任指導員	実行委員
上野 真理	横浜市立中山小学校 放課後キッズクラブ 主任指導員	実行委員
岡澤 予詩江	横浜市立山王台小学校 放課後キッズクラブ 主任指導員	実行委員
上林 かおり	横浜市立新吉田第二小学校 放課後キッズクラブ 主任指導員	実行委員
比護 正仁	横浜市立川上小学校 放課後キッズクラブ 主任指導員	実行委員
遠藤 奈津子	横浜市立茅ヶ崎小学校 放課後キッズクラブ 主任指導員	実行委員
浜田 邦子	横浜市立つつじが丘小学校 放課後キッズクラブ 主任指導員	実行委員
大内 美智子	横浜市立日枝小学校 校長	実行委員
鈴木 由香	横浜市スクールソーシャルワーカー 横浜市 PTA 連絡協議会 元会長	実行委員
奥田 宏明	NPO 教育支援協会 フリースペースみなみ運営責任者	事務局
木村 博之	公益財団法人横浜国際交流協会 みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ	広報協力

2. 事業の実施体制（再委託先まで含めた事業実施体制について図示すること。）

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

昨年度本事業を実施する中で、横浜市における外国人につながる子どもたちの学び支援についての課題を調査し整理した。また、その内容を踏まえながら具体的な外国につながる子どもたちの学び支援の方法や検証方法について議論するために、横浜放課後外国人子弟学び支援実行委員会とその評価委員会を設立した。それら委員会については、本事業と関わる中で機能し始め本年度も協力できる体制となっている。

本年度については、具体的な支援策を展開する実行委員会とし、外国につながる子どもたちの学びについて、昨年度の課題を踏まえた方向性での更なる支援と検証を行なっていく。また、本事業から生まれてきた学校・地域・家庭の協働体制を具体的に他地域へもモデルとして提示できるような仕組みづくりを模索する。



3. 実証研究のスケジュール

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業実施		<ul style="list-style-type: none"> <li>■10/18, 19 だがしや楽校（よこはま国際フェスタ 2014）</li> <li>■10/25, 26 よこはまばしインターナショナルフェスタ</li> <li>■11/29 みんなの「わっ」フェスタ</li> <li>■12/13 大岡川光のぷろむなあと</li> <li>■1/10 こども新年会 2015</li> <li>■2/7, 8 よこはま国際フォーラム 2015</li> </ul>					
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>■9月</li> <li>委員会設置, 事業実施への準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■10月～3月</li> <li>事業実施, 調査結果まとめ</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■3月</li> <li>決算報告</li> <li>報告書の作成</li> </ul>	
実行委員		<ul style="list-style-type: none"> <li>■10月～3月</li> <li>・各月で実行委員会の開催（各活動の方向性確認）</li> <li>・各活動広報, 放課後拠点継続体験活動実施（随時）</li> </ul>					

#### 4. 選択したテーマに応じた解決すべき課題

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

この10年の間に、横浜市においては外国につながる子どもの数が激増している。市は市立の小中学校に「外国籍5人で1人、20人以上で2人」の担当教師を置く「国際教室」を設け、中国語など外国語のできる教師やボランティアが個別指導で補習を行っている。しかし、それでも「20人いて卒業までに1人が習得できるかどうか」（市関係者）という状況にある。政府には、経済産業省に代表される「外国人を国内労働市場に積極的に受け入れるべきだ」という声と、厚生労働省に代表される「国内の労働者のことを考えれば、受け入れるべきではない」という二つの相反する声があるが、市の中国人コックらは特殊技能労働者としてインドネシアやフィリピンからの看護師らと同様、「積極受け入れ」の声に押される形で入国しているが、現実に移動するのは単に「労働力」ではなく「人とその家族ら」であり、そこに、多くの問題が発生している。

外国人労働力の受け入れの是非を巡っては、さまざまな論点がある。そのことについては日本政府ができるだけ早く基本方針を提示してほしいが、現実の地域社会においては「労働力」の問題ではなく、「人間」の問題が噴出しており、家族を含めた子弟の日本社会への適応に向けた教育などの支援態勢を整える必要がある。市には開港以来、外国文化を受け入れてきた伝統があり、中国語をはじめ外国語を話すボランティアが積極的に活動しているが、それでも入国者の多さに対応は全く追いついていない。態勢ができていないのに、規制緩和で来日者数ばかり増えるのはおかしい。この現実には横浜市だけではなく、日本社会全体の問題でもある。

こうした問題を学校だけに任せておくのではなく、地域社会全体で引き受けていくために、学校と地域の新たな協働体制の構築が必要であり、本事業はこうした体制を作り出すために、現時点において横浜市で行われている外国人子弟および外国につながる子どもたちへの支援活動を推進し、どのような支援が効果的なのか、何が問題で何が足りないのかを実証的に調査・研究を進める。

#### 5. 実証研究の目的、実施内容及び実施方法等

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

日本社会の中での外国につながる子どもたちの増加という問題に対して、学校だけに任せておくのではなく地域社会全体で引き受けていくよう、子どもだけでなく家族も日本の社会の一員となるよう社会支援体制を整える必要がある。その為に学校と地域の新たな協働体制の構築が必要である。そういった考えを地域社会に浸透させることが本事業の目的である。

本事業は昨年度より受託し実施しているが、2年目となる今年度では、まずは対象を「生活言語が全くできない、あるいは少しはできるが日本語ニュアンスの理解が十分とは言えない、また保護者の言語力や生活状況も関係し、今後もそれらの十分な習得が難しい児童生徒」と定義した。本地域では、年齢に関係なく保護者の仕事の都合などで日本語レベルが不十分なまま移住してくる子どもたちがいる。家庭の状況などを考えると、そういった子が今後十分な日本語のニュアンスを理解し、そして将来日本で働いていくためのコミュニケーション力をつけていくことは容易ではないと考える。そのためには学校以外の時間、つまり放課後や休日の時間をどう過ごすかが重要となってくる。その時間の過ごし方であるが、普段日本人の子どもたちが学んでいる学習塾や習い事のような強制されたものにするのではなく、本来子どもたちが自由に遊びを作り出したり、子どもたち同士、地域の人たちとの関わりの中

で創造性や地域社会を学べる時間としての体験活動の機会を提供する。しかし、昨年度の調査にもあった通り、対象の子どもたちはそういった地域の放課後活動に参加しづらい、あるいは参加の意識が低いという課題がある。今年度は、広報・告知についても新たな方法を試しながら、さらに参加した子どもたちが継続的に体験活動に関われるような仕組みを提供する。例えば横浜市南区青少年地域活動拠点であるフリースペースみなみや各小学校にある放課後キッズクラブなどの放課後拠点での継続性のある体験活動である。フリースペースみなみでは地域の子どもの学び場として、放課後の時間に小学生から高校生まで対象としたプログラムを実施している。また今年度は土曜日の学び推進を掲げ、毎週の土曜体験活動「フリスぺサタデー」を継続的に実施している。今年度も呼びかける地域イベントについて、ヒアリング調査を行うが、そこから前述したフリースペースみなみや各放課後拠点への継続的体験活動へつなげる広報を行ない、その効果検証について行なうことも目的とする。ヒアリング調査についても子どもと保護者だけでなく、外国につながる子どもたちと関わりのある団体へも調査を行ない、お互いのニーズや長所短所を共有し合い、そこから協力体制を構築することも行なった。具体的には以下の流れである。

#### (1) 各地域イベントの実施

- ①10/18, 19(土, 日) 横浜だがしや楽校 with よこはま国際フェスタ 201 ※資料1  
・関連継続的体験活動「フリスぺサタデー だがしや楽校出店チャレンジ」

##### 【総括】

ここでは主に広報についての課題が挙げられる。横浜市全体から広く参加者が集うイベントであるが、フリースペースみなみ内で実施するような局所的な体験活動や横浜市全体ではあるが全部ではない実行委員会が運営する放課後拠点への呼びかけたが、反応はなかった。本イベントを継続的な体験活動の機会につなげるとするならば、関係機関と連携しながら横浜市全体の各放課後拠点の協力が必要である。それかだがしや楽校出店チャレンジのように「自分みせ」という観点で実施するならば、各実施場所でその意味を伝えられるような仕掛けが必要である。だがしや楽校自体は体験活動の効果としては大きいですが、その要素を外国につながる子どもたちに十分に活かす手立てとしては今年度課題が残った。

またフリスぺサタデーについても内部の広報の難しさもあった。近隣で目に見える対象の子どもたちをこういった主体性を発揮できるプログラムにどうつなげていくか今後の課題が見える機会であった。

- ②10/25, 26(土, 日) よこはまばしインターナショナルフェスタ 2014 ※資料2

##### 【総括】

本イベントでは、お手伝い体験を通して地域団体と外国につながる子どもたちが交流を持てたことが成果である。受入れ団体側としても彼らがいての地域の子どものこととすることでその受入方法についても協力してくれた。しかし、関係性ができたところでもフリースペースみなみへの広報を行なったが実際につながることはなかった。地理的にもイベントと継続的体験機関はお互い近いため、何が原因で来れないのか来年度も重要なイベントの一つとして位置づけ検証をしていく。

③11/29(土) みんなのわっフェスタ 2014 ※資料3

・関連継続的体験活動「フリスペサタデー チームフリスぺ(仮)」

【総括】

ここでも当日出店に向けて、フリスペサタデーの継続的体験活動を取り入れ外国につながる子どもたちも呼びかけたが、彼らの参加にはつながらなかったという①のイベント同様の課題が残った。しかし、外国につながる子どもという枠を外すとこのようなイベントに継続して参加する子どもが出てきたこと、その感想などを伺うと本プログラムの効果は大きいと実証され、今後彼らをどのように呼び込んでいくかは来年度検討すべきである。

また、本イベントをきっかけとして、学校と地域団体との協力体制が築くことができた。具体的には、近隣の日本語教室や放課後拠点での広報機会を得られ、特に近隣の学校(外国につながる子どもたちが半数近い)の放課後拠点であるはまっ子ふれあいスクールでお互いの課題を共有して協力しながら連携ができたことは、今年度の新たな協働体制構築という点で大きな成果といえる。

さらに、本イベントから、普段からフリースペースみなみに通っている外国につながる子どもが作成したチラシ(資料15)を広報物として導入した。それについては資料3の中で詳しく述べているが、このように同じような状況の子の目線でチラシを作成し、体験活動に呼びかけていくことは今後も有効な方法として考えられる。また外国につながる子どもの保護者も同様に巻き込む仕組みとしていく。

④12/13(土) 大岡川光のぶろむなあと 2014 ※資料4

【総括】

本プログラムでは、外国につながる子どもたちの受け入れとして地域の協力体制がある。具体的には資料4の中で述べているが、昨年度より受け入れの幅の広がりがあったことは、より地域団体が彼らの住む社会について意識的になっているといえる。

今後はさらにその意識を広げ、大きなイベントだけでなく普段の体験活動の中でもそういった受け入れ体制をつくっていくこと、保護者も巻き込んだ仕掛けができてくれば、本事業の目的である学校と地域そして家庭と協働体制の形が達成できることとなる。

⑤1/10(土) こども新年会 2015 ※資料5、16

【総括】

本プログラムでは、地域ボランティアと外国につながる子ども(特に日本語の会話などがほとんどできない児童)の交流があったことが大きな成果といえる。彼らがいる状況を考え、地域の大人としてのボランティアが活躍の場を考え、関わる場面があった。また内容についてもよりイベントの目的により沿ったブースが立ち上がったことは、今後も地域社会や市民が彼らの受け入れを考えた協働体制を構築できる場となりうる可能性があるといえる。具体的に、外国につながる子どもの保護者も巻き込んだ企画や体制を整えていきたい。また、外国につながる子どもたちがボランティアとして参加できる場所として、普段と違った運営側の関わりについても検討していき

⑥1/31, 2/14, 21, 28(土) 横浜橋通商店街でお店の人のはたらいている姿を見よう！

※資料6

【総括】

本プログラムでは、学校の放課後拠点や地域団体との協力、連携、地域で働いている人の前向きな受入れ、継続的な体験活動の場といった本事業において核となる要素が詰まっていた。詳しくは資料6の中で述べているが、参加者の求めているもの、具体的な地域との連携が行く処にもあった貴重なイベントとなった。

(2) 継続的体験活動の場への呼び掛け

(1) の6つのイベントを軸に継続的体験活動の場への呼びかけを行なったが、具体的に以下イベント（フリスペサタデー）を強調して受け入れ体制を整えて準備した。

・1/17, 24(土) お茶会をひらこう！ ※資料7

2回継続参加型のプログラムであり、外国につながる子どもへの日本文化の体験も考え企画した。1回目ではお茶の作法についてプロの講師から指導を受け、2回目では自分の家族や知り合いを招待する。そういった自分から関わる仕組みを取り入れたことで、彼らにとって主体的に日本文化に関わる機会として呼びかけたが、外国につながる子どもの参加はなかった。しかし、本プログラムを通して地域の協力機関を巻き込んだ広報をしたことは、実証研究において一つの成果であるといえる。

・2/14(土) 狙え！コミュニケーションの達人 ※資料8

日本人も外国につながる子どもも言語に関係なく行えるコミュニケーションゲームをプログラムに取り入れた。各種ゲームを実施しながら最終的に達人を目指すという、人との関わりを中心においた外国につながる子どもにとっても有益となるプログラムである。実際の参加者の中に、外国につながる子どもは2名の参加であったが二人共日本で生まれ育ち日本語の会話も問題なく、今年度の調査対象とはならなかった。しかし、内容も考えると今後の事業対象の子どもを呼びかけていくことが重要と考え、来年度も検討していく。

・3/7(土) オリジナルカクテルを作ろう！ ※資料9

地域市民が地域の子どものために何かできないかとボランティアとして立ち上げたプログラム。自分のイメージしたものをつくる、人が自分のために考えながら作ることに對して感謝を味わうという要素があり、外国につながる子どもにとって子どもたち同士の関わりを意識したイベントとして導入した。ここでも外国につながる子どもの参加がなかった。

以上のように、実際の外国につながる子どもの参加は少なく、継続的な体験活動につなげることは課題が残った。来年度についての検討事項である。しかし、広報方法については学校放課後拠点や関係機関との協力体制が構築されてきており、今後連携を取りながら連携していけることとして一つの成果である。

(3) 市民への事業報告の場及び体験活動の意義の共有

- ・2/7(土) 「外国につながる子どもたちの体験活動推進ワークショップ」の開催

※資料10

本事業を進めるにあたり、その内容を広く市民に伝えたり意見をもらう場として、毎JICA 横浜で開催されている「よこはま国際フォーラム 2014」のという国際交流・理解のフォーラムにおいて上記の企画を行なった。

今まで外国につながる子どもだからと体験が少ないと考え、支援が必要とばかり考えていたが、発想を転換して彼らが体験活動に参加するからこそ生きることがあるのではないかと、体験活動の本来持っている要素をより引き出せることになるのではないかとという視点で行なった。それについては参加者の中で共有できたといえる。

来年度はこの視点での体験活動の意識を、本事業を通して構築されたネットワークの中でも提言し、浸透させていく。

以上の流れを、昨年度と今年度の実行委員会と連携しながら実施した。そこでの意見を取り入れた、昨年度の課題への取り組みや次年度の方向性については、次の成果のところで報告する。

## 6. 実証研究で得られた成果

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

本年度の実証研究で得られた成果であるが、以下のようにまとめる。

### 1. 昨年度（2013年度実証研究）の課題に対する取り組み ※資料11

#### (1) 対象が絞りきれいでいなかった課題に対して

昨年度研究を進める中で、一概に外国につながるといっても多様に広がるという現状において、本事業の対象をどこに置くのかということに対して、本年度は「生活言語が全くできない、あるいは少しはできるが日本語ニュアンスの理解が十分とは言えない、また保護者の言語力や生活状況も関係し、今後もそれらの十分な習得が難しい児童生徒」と定義した。これにより、新たな広報の課題が発生し受入れ体制の改善は必要となったが、より対象にフォーカスした実証研究が可能となった。

#### (2) ヒアリング調査方法及び内容についての課題 ※資料12

本年度のヒアリング方法であるが、日本語の会話表現が難しい子については通訳を介したインタビュー調査を実施し、またそれ以外にも、プログラム終了時に集中して記入する時間を設けたりした。また内容についても各イベント実施報告書にもあるように、なるべく同じ内容に即した調査を実施し母数を集め変化も検討できるようにした。しかし具体的質問事項についてはまだまだ精査が必要であると感じており、来年度への課題である。

また新たな取り組みとして、本年度は対象の子どもたちが関係する受け入れ側のヒアリングも行なった。回収できたのは5団体であるが、その意見についてはそれぞれの団体が抱える課題や方向性も記載しており、今後協力体制を構築していくための貴重な情報となりうる。またそこでの交流や本事業の主旨などを伝え共通理解をはかることで、

お互いの長所を活かし短所を補いながら推進していけることとなる。このネットワークを大切に、来年度に活かしていく。受入れ団体ヒアリング調査についてまとめたものは資料12で示す。

### (3) 広報や周知に関する課題

まずは本年度も昨年度に引き続き、対象の子どもの体験活動への参加が少ないという広報の課題を抱えている。ヒアリング調査を実施してもその母数が少ないとまだ眠っている声があるといえる。しかし、昨年度の改善案でも挙げた、はまっ子ふれあいスクールなどの対象の子どもが多く通う学校内にある放課後拠点や近隣の日本語教室などと、課題を話し合いながら協力体制ができたことは今後広報体制を検討するにあたり有意義な成果である。

また、プログラムの実施場所についてはまずは安心して参加できる場所として、まずは近隣の青少年が集まる場所であり、もう一つの横浜市南区青少年地域活動拠点である横浜青年館で「お茶会をひらこう！（資料7）」のプログラムを実施した。さらに、横浜市南区青少年地域活動拠点であるフリースペースみなみの地域への認知度を高めてきた。それについては、対象の子どもたちも口コミで増えたこともあり、参加する敷居は低くなったのではないかと考えられる。しかし、学校内で行なうなどより普段通っている子が参加しやすい状況のプログラム実施なども次年度検討が必要である。

広報物について、昨年度同様6つの言語（英語、中国語、タガログ語、タイ語、韓国語、ロシア語）の翻訳チラシ（資料13）を作成し横浜市教育委員会を通じて、横浜市全体の国際クラスに配布を促したが、そこからの参加はなかった。昨年度同様ただ言語の問題だけではないということが分かる。しかし、「横浜橋通商店街でお店の人のほらいている姿を見よう！（資料6）」のプログラムを協力機関である日本語教室の時間内で広報させていただく際に、中国語の翻訳チラシ（資料14）を用いたところ、その後すぐにチラシを持って参加申し込みに来たことから、内容を理解しやすかった、読みやすかったという点で有用であったといえる。翻訳など言語についての工夫も、方法によっては活かせるということが実証できた点である。また、普段から関わりのある子ども（日本語の読み書きや表現が十分でない）に直接翻訳チラシ（資料15）を作成してもらうこともできた。そのように、その状況の子どもや保護者の目線でのチラシを作成することは今後も有効だと考え検討する。

### (4) 言語・価値観についての課題

本人が意識していなくても外国につながる子どもという枠により、個人のアイデンティティを傷つけてしまうことになりかねない。今回どのプログラムにおいてもなるべく日本の子どもたちと同じ環境で実施できるよう考慮した。まずはイベントの主催者や受入れ団体に外国につながる子どもたちの状況を伝え理解をいただき、内容についても言語を用いないわかりやすいものやゲームが主となるプログラムも実施した。

これについては必要以上に通訳が介入しないこともあり、元々子どもたちが持っている「多様な他者と関わる力」を実践できる場もなった。具体的にだがしや楽校やこども新年会などのイベントで、子どもたち同士が言語を使わず試行錯誤しながら伝えようとしている場面があったが、その効果については2/7に実施した「外国につながる子どもたちの体験活動推進ワークショップ（資料10）」においても提言した。



## 2. 来年度に向けて

今年度も、外国につながる子どもたちを巻き込む仕掛けを準備してプログラムを立ち上げてもなかなか参加の機会につながらないという課題を抱えたままであった。そこで今年度は、対象の子どもたちと普段から関わりのある放課後拠点や団体と協力体制を構築してきた。

その過程でヒアリングをしていてわかったことは、それぞれの団体も課題を抱えていたり、子どもたちをこういう方向にしていきたいという想いを持っていて、それについての具体的な策を打ててないという現状があるということである。例えば、近隣の学校（外国につながる子どもが半数にもものぼる）のはまっ子ふれあいスクールでは、外国につながる子どもに日本で生きていくためのマナーやルールを教えることが最優先であり、なかなか自発的な体験活動を行なうに至るまでなっていないという声があった。そこで、近場にある体験活動の機会の案内を依頼したところ、子どもたちの新たな居場所、学びにもつながるかもしれないと快く承諾していただいた。その拠点とは今後も連携する体制が取れるようになってきている。そのように協力体制を構築していく中で、それぞれの団体が抱えている課題や方向性を聞き出し、必要があれば他の団体につなぐなど中間支援的な役割も行なうことができる。新たな協力団体の開拓も進め、外国につながる子どもたちをきっかけとしてお互いの課題や特徴を相互に理解し合える地域市民や団体同士のネットワーク構築をすることが来年度の目標とする。具体的なことについては以下に示す。

### (1) 広報方法

対象の子どもたちと関わりのある団体に広報協力を仰ぎ、また実施場所についても相談する。特に外国につながる子どもたちが多く集約される日本語教室や放課後拠点などはその募集の中核を担う核となる。実施場所についても、普段通い慣れている場所であったり、人員含め受け入れ体制を整えやすい場所を検討する。また協力体制を構築する中で、それぞれの団体の課題や方向性を聞き出し、必要があれば他の団体ともつなぐ中間支援的な役割も行なう。

広報物については関係性の出来た保護者や子どもを巻き込み、彼らからの意見も取り入れながら作成する。

### (2) 体験活動内容

体験活動の内容については、常に精査をする必要があり、例えば「横浜橋通商店街でお店の人のほたらいている姿を見よう！（資料6）」のプログラムでは、当初はなんとなく友人と楽しく参加できそうだからというきっかけであった外国につながる子どもも、回を重ねる毎にそのプログラムの意図を理解し、最終回で地域の人との温かい関わりを持つことが出来た。それについては継続的な体験活動の長所が出た活動であり、地域を巻き込んだ、そして子どもたちが主体的に関われるような要素は今後も取り入れていくことが大切と考える。その際、なるべく中身に関わる支援体制は整えず、子どもたち同士の関わりの方で言語の壁を乗り越えるような活動とする。

### (3) 参加しやすさ

対象の子どもが参加するにあたり、費用と信頼できる仲間の2点が壁であることが今年度の実証研究によりわかった。そこでそれらを考慮したあるいは敷居を下げるための

仕掛けを次年度は取り入れていく。しかし、費用については無料にするとプログラム自体の価値を下げてしまうこと、意味を持って参加するという意識が低くなってしまいうこともあるので、その具体的方法については実行委員会でも議論しながら慎重に検討する。信頼できる仲間については、入口は一緒に参加できることとしても他の子どもに関わる機会を設け、その中で子どもの関わる力を信じ関係性を構築できるのを目標とする。

### 3. 事業完了にあたって

日本社会の中での外国につながる子どもたちの増加という問題に対して、本事業を始める際、学校だけに任せておくのではなく地域社会全体で引き受けていくよう、子どもだけでなく家族も日本の社会に適応するよう社会支援体制を整える必要があり、その為に学校と地域の新たな協働体制の構築が必要であると考え、そのことを目的として事業を進めてきた。

その2年目となる今年度は、昨年度の課題を踏まえ改善策を実施し、更には単発的な体験活動の機会だけでなく継続的な体験活動の機会につなげ、そこでの地域住民や子どもたち同士の関わりをより深く作っていくことを目的の一つとした。その関わりの中で、その子どもたちの状況を認識し理解した地域住民あるいは団体が、学校も巻き込みながら話し合い連携すること、そういった協働体制を構築することが自分たちの住む地域の子どもの責任を持って地域で育てていくことにつながる。無縁社会と言われる昨今であるが、彼らをきっかけとしてそういった体制ができていくことは家庭環境や学校の制約を飛び越えて、地域社会全体で地域の子どもの引き受けていくということにつながる。そのためには、「外国につながる子どもたちの体験活動推進ワークショップ（資料10）」でも述べたように、彼らがいるからこそ生きる体験活動の本来の良さを出来るだけ広く提言し、コンテンツの内容も深めていく。それが浸透した時、外国につながる子どもに限らず体験活動を本来の意義に沿って推進することが、学校を含めた地域社会における協働体制の構築につながる事が広く理解されるはずである。

3年目となる次年度では、2年間を掛けて構築してきた協働体制ネットワークをさらに活かし、上記「2. 来年度に向けて」で挙げたような方針と具体的内容で実証研究を進め、地域に住むすべての子どもたちにアプローチできるような学校と地域の新たな協働体制を構築するための一つのモデルとして全国に発信していく。

学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究  
「横浜だがしや楽校（よこはま国際フェスタ 2014）」及び  
「フリスペサタデー だがしや楽校出店チャレンジ」についての実証研究

## 1. 本体験活動における実証研究の方針

昨年度は外国につながる子どもたちを、様々なブースのボランティア活動を通してイベントに主体的に関わったり、そこで知らない人との交流をしたりするということを目的として参加を呼びかけたが、今年度は本来だがしや楽校が持っている大きな特徴である自分の得意なことや特技をみせるという「自分みせ」を企画・準備するところに呼びかけることとした。本来横浜だがしや楽校では、自分たちの企画した店やブースを出店することが出来る。他の団体からもいくつか自分みせは出店されたが、本事業の対象の子どもたちについては、横浜市南区青少年地域活動拠点であるフリースペースみなみの土曜日活動「フリスペサタデー」の一つである「だがしや楽校出店チャレンジ」に呼びかけた。本プログラムは、子どもたちが継続的に体験活動に関わることで、同じ参加者とより深く人間関係を築ける場としても期待でき、日本人や外国につながる関係なく自分の想いを伝えていく機会も多くある。その中で外国につながる子どもたちを含んだ子どもたちがどのような関わりを見せるのかを期待し、本事業の実証研究の場として準備した。

## 2. フリスペサタデー「だがしや出店チャレンジ」実施概要

### ■目的

- ・与えられたテーマの中で、試行錯誤しながら自分を表現する。
- ・周りと協力するということ、人を活かす自分を活かすことを学ぶ。
- ・運営まで責任を持った場に関わることにより、主体的に関わる機会とする。

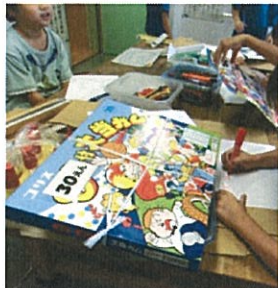
### ■スケジュール及び参加者数

横浜市南区青少年地域活動拠点であるフリースペースみなみの土曜日活動「フリスペサタデー」の4回継続参加型プログラム「だがしや楽校出店チャレンジ」として実施した。

- ①9/27(土) 第1回「企画会議」 参加者 5名 (内、外国につながる子 0名)
- ②10/4(土) 第2回「出店準備①」 参加者 6名 (内、外国につながる子 0名)
- ③10/11(土) 第3回「出店準備②」 参加者 6名 (内、外国につながる子 0名)
- ④10/19(日) 第4回「出店本番」 参加者 12名 (内、外国につながる子 1名)

## ■当日の様子

### ①～③ 準備の様子



9/27,10/4,11(土)フリスペサタデー  
「横浜だがしや楽校出店チャレンジ」企画・準備  
初回は内容を決めるために、様々な意見の出し合い  
もありましたが、決まると準備に向けてどんどん進  
めていきました。本番が近づくに連れ、緊張感やワ  
クワクも高まってくる！

### ④本番の様子



10/19(日)フリスペサタデー  
「横浜だがしや楽校出店チャレンジ」本番！  
射的と百人一首のお店を出しました。自分たちでお  
店を運営するのって緊張する・・・。  
子ども店員大活躍！！  
みんなおつかれさまでした～！

## ■広報について

フリースペースみなみの月例通信の中で呼び掛けをした。具体的には、以下の内容を9月号と10月号に掲載した。地域においてフリスペサタデーの周知は9月に始まったばかりで、今回は普段フリースペースみなみに通っている子（外国につながる子どもを含む）を中心に呼び掛けを行なった。また、外国につながる子どもたちが多数存在する地域に立地するフリースペースみなみには普段から通ってる子どもたちの中にも、対象の子どもたち（日本語が不自由または表現やニュアンス理解が十分でない）がいるが、その子たちの普段の様子を見ると、他の子達との関わりがまだ十分であるとは言えない。そこで、本プログラムに参加し協働作業をする中で、他の子との関わりが多くなることを期待した。

< 9月号掲載 >

9月27日 だがしや楽校(よこはま国際フェスタ 2014)

出店チャレンジ 第1回「企画会議」

横浜最大級の国際フェスタに、子どもたちで企画したお店を子どもたちで出店します。そこに向けて子どもたちが企画会議や準備を行います。

時間：10:00～12:00

定員：20名

今後の出店チャレンジ：10/4(土), 10/11(土)

※参加する子は、なるべく全日程参加するようにしてください。

出店本番：10/19(日) 横浜市中区「象の鼻パーク」



<10月号掲載>



### ☆☆射的・百人一首ブース出店決定☆☆



買い出しをしたり看板を作ったりなど、出店本番に向けて準備をします。本番10/19(日)、5万人を超えるたくさんの方が集まるフェスタの中で、自分たちのお店を盛り上げよう！！

【日時】 第1回出店チャレンジ：9月27日(土)「企画会議」 ⇒ 終了

第2回出店チャレンジ：10月4日(土) 10:00~12:00 「出店準備①」

第3回出店チャレンジ：10月11日(土) 10:00~12:00 「出店準備②」

☆出店本番：10月19日(日) 9:30~15:00 (開店時間 10:30~14:30) ※現地集合

※なるべく全日程参加するようにしてください。出店本番のみの参加はできません。

準備だけでも一度は関わってください。

※出店本番の日については交代で休憩を取ります。

風が強く、寒くなる可能性がありますので、上着をお持ちください。



【費用】 無料 【場所】 横浜市中区象の鼻パーク プロムナード下

#### ■本プログラムに対する考察

今回、普段フリースペースみなみに通所している子どもたち(外国につながる子どもを含む)を中心にプログラム参加を呼びかけたが、企画・準備段階の参加数は多くはなかった。その原因として以下の点が考えられる。

- ①普段中々体験できないような内容を売りにしたが、逆にチラシの文面だけでは内容が伝わりきらなかったのではないか。
- ②継続的な関わり方を持つことで効果が期待できると考え、4回継続参加を呼びかけたが、全ての回数を参加することは難しいという意見があった。地域の他の活動など多くある季節なだけにその制約が厳しかったのではないかと考える。途中から参加も可能としていたが、実際には第4回に多く参加することとなった。

しかし、プログラムを実施する中で、継続して参加する子が最後に「また参加したい！」「自分の好きなお店を出店できて良かった」という意見が出てきたこと、実際にその後の類似プログラム(チームフリスぺ)に続いて参加した子どもも今回の参加者の中に多くいることから、本プログラムが地域の子どもたちにとって有用であると言える。さらに、その中でプログラムを引っ張っていくような存在を育て、彼らが外国につながる子どもを含む新規の子たちを巻き込みながら、地域イベントに主体的に関わっていけるような仕組みづくりとしても今後検討できる。

## ■本事業についての考察

外国につながる子どもたちへのアプローチであるが、通信や掲示だけでなく通所している子どもたちに直接声掛けをすることで始まった。しかし、実際は第4回に1名の参加のみであった。結果、対象の子どもたちが継続的に参加する中で他の子ども達との関係を築いていくというような、当初こちらが期待していたような場面にはならなかった。参加につながらなかった原因として、以下の点が考えられる。

- ①上記同様4回の参加という制約に加え、普段の場所とは違う（どのような場所なのか見えない）という問題もあったのではないかと考えられる。普段フリースペースみなみには近隣に在住する子どもたちがほとんどなので、普段行きなれない場所となると保護者の送迎が必須となる。しかし、当施設に通っている外国につながる子どもの保護者は普段から当施設との関わりが少なく、姿も見えづらい。その点も影響し、具体的な話に進まなかった。
- ②プログラムを広報するにあたり「～が行くなら私も行く」という声はよく聞こえる。友人同士参加というのが一つの参加のポイントであるが、当施設においては対象の子ども達のような他と関係性が薄い対象の子どもたちにとっては、こちらが考える以上に参加の敷居が高かったと考える。

以上のことを踏まえ、今後はプログラム参加方法や広報について次年度改善を図る。

ちなみに第4回に参加した子であるが、フィリピンから今年度来たばかりということもあり、日本語をほとんど話せない。しかし「自分みせ」の店員や雑務を見よう見まねでこなすうちに、徐々に他の子どもたちと打ち解けたり、中学生ということもあり、他の中学生ボランティアと関わる場面があった。このように体験活動に関わる中で言葉の壁を飛び越えた関係が築けることは、本プログラムが対象の子どもたちにとっても有益であると考えられる。彼に対するヒアリングの内容と結果は以下のとおりである。

## 【だがしや出店チャレンジ こどもアンケート】

- (1) 出身は <sup>しゅっしん</sup> どの国 <sup>くに</sup> ですか？ ⇒ フィリピン
- (2) がくねんは？ ⇒ 中学 <sup>ねん</sup> 2年 おとこ
- (3) このイベントに <sup>さんかして</sup> たのしかったものは何 <sup>なん</sup> ですか？ それは どうしてですか？ ⇒ お店の手伝いをしたこと
- (4) ふだん <sup>じかん</sup> ほうかごの時間は なにを していますか？  
⇒家で本を読むか、テレビ（日本の番組）を見ている。あまり外にでることはしない。
- (5) どういう <sup>かつどう</sup> ほうかご活動が あったら いいですか？ それはなぜですか？  
⇒ 無回答
- (6) そのほか ⇒ 無回答

### 3. 横浜だがしや楽校実施概要

#### ■だがしや楽校とは

山形で始まった「だがしや楽校」運動は、学校では学べない楽しいもうひとつの学校として全国に広がっている。いつでも誰でも気軽に開くことができるインスタントイベント方法で、誰もが自分の特技や趣味を「みせる」ことができる「自分みせ」を開き、人々のふれあい・交流を目的としたものである。

学校教育だけでは不足する様々な人との交流の場は、子どもにとって、人格形成には重要なものであり、また、大人にとっても生涯教育の場となる。

横浜では子ども文化の中心であった駄菓子屋を復活させようとしていた阿部進氏が校長となり、新しい地域コミュニティ再生や子どもの自主的な活動場所として広がっている。子どもたちがボランティア活動を通して社会参加意識を作り出し、さらに、子どもたちとこのイベントに参加する NPO や企業、学校やボランティア団体との交流を目的として実施している。

#### ■主催 特定非営利活動法人教育支援協会

#### ■協賛 (財) 日本英語検定協会

#### ■企画協力 (株) やおきん

#### ■運営協力 横浜アクションプランナー・NPO アクションポート横浜

#### ■企画内容

こどもボランティア登録所／エコマネー引換所／駄菓子屋／実験ブース／川上小学校  
放課後キッズクラブブース(ハロウィンブローチ)／ふくしまキッズ活動紹介 (CVIK ブース)／こどもワークショップブース

#### ■こどもボランティア体験参加人数

631 名 (延べ人数 18 日 273 名、19 日 : 358 名)

※うち、外国につながる子どもを含むが実数は不明。

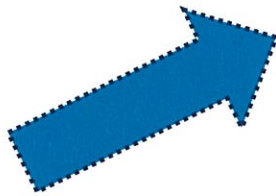
#### ■大人ボランティアスタッフ

114 名 (延べ人数 18 日 54 名、19 日 60 名)

■ だがしや楽校の流れ



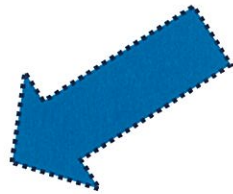
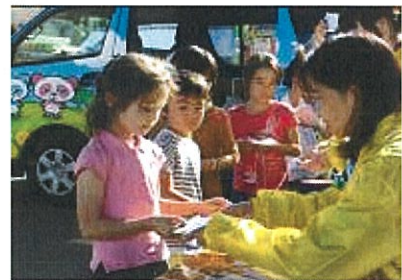
① ボランティア登録所  
お仕事を紹介してもらう。



② それぞれの場所で  
30分お仕事をする。



③ エコマネー引換所  
終了の報告をしてエコマネーをもらう。



④ 駄菓子屋  
稼いだエコマネーでお買い物をする。



## ■目的と成果

- ①当日よこはま国際フェスタに遊びに来た多くの子どもたちがボランティア体験やワークショップなどの参加の場を提供し多くの「知らない大人」と関わる機会を作れた。
- ②子どもボランティア体験で子どもたちに役割を与え、子どもが人に認められ、自信と自己肯定感を持つような体験ができた。当日は、ブースの大人スタッフの指導のもと、販売や宣伝、チラシ配りなどのお仕事を子どもたちが楽しそうにしていた。ブースの方からは「子どもたちが来てくれて助かった」「子どもたちが一生懸命にやってくれた」との感想があり、子どもに褒めている光景も見られた。
- ③地域ぐるみで横浜の発展や子どもたちの成長に関わっていく風土を醸成する機会となった。  
⇒今年は中学生から60歳代の方まで述べ114名のスタッフが運営に関わった。この横浜だがしや楽校で「子どもたちと関わりたい」「自分の視野を広げたい」「教員を目指しているので、経験になれば」など、様々な立場の方がボランティアとして集まった。中には、小学生の頃、このだがしや楽校に参加して、今度はボランティアとして関わりたいという人もいた。まさに、横浜だがしや楽校こそが子どもたちの成長に関わっていく風土だといえる。
- ④子どもたちが、さまざまな国のブースで仕事をすることで異文化に出会うきっかけとなった。  
⇒ブースの方には子どものボランティア体験だけで終わるのではなく、自身のブースの紹介や団体の紹介もしてもらうようお願いをし、子どもたちに少しでも国際交流や多文化共生に興味を持ってもらえるようにした。子どもたちの感想からも、「楽しかった」だけでなく、各国の言語を教えてもらったり、活動紹介してもらった感想もあり、国際交流や多文化共生の理解が進んだのではないかと。

## ■まとめ

2004年の日本丸パークから始まった横浜だがしや楽校は今年で11年目の開催となった。2007年からよこはま国際フェスタと連携することで、国際交流・協力をする団体との交流が可能になり、子どもたちは単にボランティアを体験するだけではなく、派遣先のブースの団体の活動内容を知って、国際交流や国際協力、多文化共生について学ぶことができるようになってきている。今年は、去年の悪天候に見舞われることなく、天候に恵まれて、2日間で46,000人の来場者で賑わった。子どもたちを受け入れてくれた団体からは、子どもの受け入れによって役に立ったり、活動内容を伝えられるので非常に好評だった。子どもたちからも「楽しかった」「ブースで〇〇を教えてもらった」などの感想があった。子どもたちは1回終わると楽しかったようで、何度もボランティア体験を繰り返してやる姿が多く見受けられた。チラシ配りの仕事は、知らない人に、人前で

大きな声を出すことなど、中々難しいことで、最初はお客さんが無視をされたりして中々うまくいかなかったが、1回成功するにつれて徐々に自信がつき、喜びや達成感を得ているようだった。そこで大人が子どもを褒めて、さらに自信がついた様子が見受けられた。

今後も本イベントについては、子どもたちが主体的に関われる場、知らない人との関わりを持てる場として機能させていく。

#### ■本事業からの考察

横浜だがしや楽校については、毎年多くの外国につながる子どもたちが参加している。お手伝い先の団体も国際関係の事業をしている人がほとんどで、そういった子どもたちへの理解がある団体も多い。今回外国につながる子がお手伝いに入ることはあったが、言語面で不自由な子はいなかった。今後はそういった子どもが参加できるような体制の整備が必要である。なお、お仕事体験に参加した子どもたち及び保護者にフリースペースみなみのチラシなどを用いて継続的体験活動への参加を呼びかけたが、そこからの参加はなかった。

※参考「よこはま国際フェスタ 2014 概要」



- 開催日時 2014年10月18日・19日 10:30~16:00
- 会場 象の鼻パーク
- 来場者数 45,538人(主催者発表・スタッフ、ボランティア含む)  
18日:20,578人 19日:23,208人 スタッフ:1,752人
- 参加団体 NGO/NPO 103団体/学校 6校/行政機関 2局/国際機関 4機関  
/企業 3社/ソーシャルビジネス応援枠 3社
- 主催 よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会  
よこはま国際フェスタ 2014 プロジェクト
- [構成団体] (特活) 横浜 NGO 連絡会/公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)/  
JICA 横浜/横浜市政策局国際政策室/ (特活) 教育支援協会/  
日本赤十字社神奈川県支部
- 特別協力 横浜市水道局
- 後援  
外務省/朝日新聞横浜総局/読売新聞東京本社横浜支局/神奈川新聞社/毎日新聞社横  
浜局/日本経済新聞社横浜支局/東京新聞横浜支局/tvk(テレビ神奈川)/FM ヨコハマ  
/横浜商工会議所/横浜市教育委員会
- 広報協力  
ホッチポッチミュージックフェスティバル
- 協賛  
神奈川県行政書士会/横浜エレベータ株式会社/(特活)ともに浜をつくる会/(特活)横  
浜国際ボランティア協会/JFE エンジニアリング株式会社/フェアトレード団体ネパ  
リ・バザーロ/ラテンアメリカ青少年の会/株式会社横浜シーサイドライン/横浜F・マ  
リノス/学校法人創志学園 クラーク記念国際高等学校 横浜青葉キャンパス 国際交流  
ゼミ/京浜フェリーボート株式会社
- 企画協力  
京浜フェリーボート株式会社/公益財団法人横浜市資源循環公社/株式会社やおきん  
/明るい社会づくり運動中区協議会/一般社団法人鬼ごっこ協会/ペスカドーラ町田

学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究  
「よこはまばしインターナショナルフェスタ 2014」 についての実証研究

## 1. 本体験活動における実証研究の方針

昨年度に引き続き、子どもたちの体験の場を提供するために本事業実行委員会事務局である NPO 教育支援協会の運営するフリースペースみなみとして関わり実証研究の対象としたイベントであるが、昨年度の印象から対象の子どもたち（日本語が不自由、ニュアンスの理解が十分でない）が多く参加する印象を受けた。そこで運営する内容として子ども遊びブースとお仕事体験のシステムを設けたのは昨年度と変わらなかったが、お仕事体験について今年度は出展している他ブースにも子どもの受入れ先として開拓した。その際、対象の子どもたちがお手伝いに参加するかもしれない旨を伝え了承をいただけた。また、彼らや保護者へのヒアリングと同時に受入れ団体へのヒアリングも行なった。

## 2. 活動実施概要

### 【目的】

横浜橋通商店街周辺には、アジア圏を中心に多くの外国人の方々が在住しており、近隣のコミュニティ形成の一端を担っています。また、その一方で古くからこの地域に住む高齢者も多くいることから、これまで以上に高齢者の方々と外国籍の方々が「みんなで賑わい」「住みよい」環境をつくっていくための取り組みを目指した。

また今回は、昨今における異常気象や地震などに対する「防災」をテーマに隣接する伊勢佐木町・黄金町バザールとともに防災をテーマに（万が市）を開催した。

災害時のコミュニケーションや、日本における防災慣習を外国籍の住民にも浸透させておくことが、いざ災害が発生した際に、外国籍の住民の方々と商店街住民とが協力しあつての安全な行動へと繋がります。

地域で安全に・安心して暮していけるように、住民同士が連携をして「防災」についての取り組みを行なうことは、衣食住に加えて新しいステージとしてのコミュニケーション構築の場所として、日常での快適な生活を作ると考えます。

【実施内容】 ステージイベント、世界の雑貨品などの販売、リサイクルバザー、世界の食文化コーナー  
防災コーナー

【日時】 2014年10月25日(土) 10:00~20:00、26日(日) 10:00~17:00

【場所】 大通り公園（横浜市南区 横浜橋通商店街付近）

【主催】 横浜橋通商店街協同組合、よこはまばしインターナショナルフェスタ実行委員会

【後援】 南区役所/公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）

【協力】 伊勢佐木町商店街(3~7丁目)、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

【参加人数】 約1000人

### 3. フリースペースみなみブースについて

【ブース実施時間】 両日 11:00～15:00

#### 【目的】

- ・近隣の子どもたちが参加するイベントの中で、お仕事体験を通して社会参画について学ぶ機会とする。
- ・様々なブースの中でのお仕事体験を通して、ブースの人たちと子どもたちが関わることにより、普段できない交流の機会とする。
- ・日本文化につながる素読暗唱を行なうことにより、参加者に多文化理解の機会とし、フリースペースみなみの素読プログラムに参加してもらえるようにする。⇒実施せず

【実施内容】 子ども遊び [輪投げ、ぬりえ、ミサンガ (実施せず)]、素読暗唱 (実施せず)、お仕事体験

#### ※以下詳細

- ・輪投げ⇒保護者と一緒に勝手に遊べる、26日は3つ以上入ったら、おかしやおもちゃを一つプレゼントし、そのために掲示もした。あげすぎることには注意をしなければならないので、一人一回のみ渡すこととした。幼児でも楽しめる仕掛けとして有用であったが、ある程度管理が必要。輪が外れると汚れてしまうため、ウェットティッシュを導入した。
- ・ぬりえ⇒言語関係なく楽しめる。幼児でも夢中で出来るため、人気があり非常に有用。子どもたちのちょっとした居場所としても機能していた。
- ・ミサンガ⇒当初「作る系」が必要と感じ導入したが、管理の体制上困難と判断し、実施を取りやめた。
- ・素読暗唱⇒素読暗唱も絡めてフリースペースみなみの活動につなげることを目標としていたが、子どもの集まりの悪さ（場所も関係している）により実施するまで至らなかった。
- ・お仕事体験⇒横浜市資源循環局ブースでの「ティッシュ配り」、横浜市国際交流協会での「チラシと飴配り」、横浜橋プロジェクト（横浜市立大学学生チーム）での「キムチツアー呼び込み」の3つの地域団体のブースでお仕事をして、その対価としてお菓子やおもちゃを用意した。

【子どもボランティア数】 25日：18名 26日：28名

#### 【当日の様子】



#### 【課題と改善点】

- ・お仕事体験を実施した際に、仕事としての価値を伝えきれず、中途半端な体験となってしまった。例えば横浜市国際交流協会のブースで飴を配るお手伝いにしても、飴を配ることが仕事ではなく、防災の意識を伝えることがブースの主旨であった。子どもたちは飴を配ること、時には強引に渡すなどして、防災の話などをすることが全くなかった。  
⇒仕事内容の精査が必要であった。何のためにその仕事をやってるのか。そのブースの主旨に関わるようなお仕事体験をしないと意味がない。受入ブース側にもインパクトを残せない。
- ・後半になると何回も仕事をする子どもが増えてきて、仕事内容が煩雑になってくるがあった。  
⇒受け入れ側との調整が必要。

- ・ぬりえが人を引き止める効果となっていたため、多言語のぬりえの案内を掲示しても良かった。
- ・わたあめを食べながら仕事しようとする子（本事業対象の子）がいた。  
⇒近隣の放課後拠点担当者からも「彼らが日本で生きていくために、まずは日本の社会ルールをしっかりと教えないといけない」と言うように、地域の人達と連携しながら地域の子どもたちを面倒見ていく風土は大変重要だといえる。

#### 4. 本事業についての考察

##### I. アンケート結果

###### ①子どもアンケート 集計数7

###### <質問内容と回答>

※文言は回答そのままを記載

※日本語が不十分な子については、説明あるいは字をゆっくりと教えながら記入。

###### (1) 出身は どの国ですか？

⇒中国1、タイ5、韓国1、日本1 ※二カ国回答している子が1名

###### (2) がくねんは？

⇒1年1人、3年1人、4年3人、5年1人、6年1人

おとこ2、おんな5

###### (3) このイベントに さんかして たのしかったものは何ですか？ それは どうしてですか？

⇒ティッシュバリ、ともだちとティッシュバリしたこと (小1女子 タイ)

キャディーくばり、ともたちとキャディーくばりおしました (小3女子 タイ)

こおりざとくばり、おてつだいたりいろいろなのしかったっです。(小4女子 タイ)

氷砂糖、ティスー (小4女子 タイ)

ティッシュくばり、ひじょうしょく、いろいろな人のためにがんばったから(小5女子 韓国・タイ)

緊張する、あげるのが楽しい ※代筆 (小4男子 中国)

わなげ (小6男子 日本) ※外国につながる子

###### (4) ふだん ほうかごの時間は なにを していますか？

⇒べんきょうをしています。(小1女子 タイ)

でざいんをしています。(小3女子 タイ)

友だちとあそんでいます。(小4女子 タイ)

べんきょう (小4女子 タイ)

べんきょう遊びピアノ (小5女子 韓国・タイ)

公園で遊ぶ、家(PC) (小4男子 中国) ※代筆

しください (小6男子 日本) ※外国につながる子

###### (5) どういう ほうかご活動が あったら いいですか？ それはなぜですか？

⇒こうえんであそびたいです。(小1女子 タイ)

こうえんでじでんしゃをしています。(小3女子 タイ)

チームをつくってダンスをやりたいです。(小4女子 タイ)

ピアノを練習をもっとしたい (小5女子 韓国・タイ)

###### (6) そのほか

⇒ともだちといっしょにあそぶこと。(小1女子 タイ)

はむすたーとあそんでいます。(小3女子 タイ)

家族ごっこよりみんなと～。(小4女子 タイ)

## ②大人アンケート 集計数5

### <質問内容と回答>

※日本語が不十分な方については、インタビュー形式で実施。

(1) 出身は どの国ですか？

⇒タイ1、中国1、日本3

(2) きょうの 参加について お聞かせください。

①今日は どのように 参加していますか？

⇒こどものつきそい2、近所に住んでいる3

②どうやって このイベントを知りましたか？

⇒友人に聞いた(出店者の友人)2、偶然通りかかった3

(3) このイベントに 参加しての 感想を お聞かせください。

⇒子どもが楽しめる3、たのしかった1、色々な国の食べ物とかが良かった1

(4) こどもにとって どういう ほうかご活動が あったら いいですか？それはなぜですか？

⇒野球サッカーなどのスポーツ系、無料で日本語を教えてくれる、公園のルールを教えてくれる  
一緒に遊んでくれる人がいたらいい、預かってくれるだけでもありがたいです、ふれあい

(5) そのほか

⇒放課後の子どもの過ごし方についての現状

テレビ(日本のアニメ)、地域のまつりに参加している

## II. アンケートについての考察

今回対象の子どもたちが活動に参加した後に、ぬりえの場などを活用してヒアリング調査を行なったが、記入する際に、日本語の書きの単語がわからない、質問のニュアンスがよくわからないなどということがあった。学年で考えると、習熟が遅れているのがわかる。こどもアンケートについては、当初昨年度の課題からインタビュー形式を検討していたが、友人同士まとまってお仕事体験に参加することが多かったために、活動が一通り終わった後の落ち着いた時間を利用して、まとめて記入する時間を用いた。集中して記入していたので、効果的な調査ができたと考える。加えて文言など変えずにそのまま記入してもらったが、お仕事体験を楽しみながら実施していたことがわかる。また、どういった放課後活動をしたいかについては、自分の興味のあること中心の意見があった。しかし、ゆっくりと質問していても回答のキャッチボールがうまくいってない部分もあり、今後の調査課題である。

保護者については、日本語がわかる方(祖父、祖母など)がついていることが多かった。また、親は友人と懇親会をしていて、手持ち無沙汰になっている子どもが仕事体験に参加しているというケースもあった。活動に参加した動機についても偶然通りかかった、友人が出店していたなどという意見があった。放課後活動については、見守ってくれたり、子どもを楽しませてくれるようなもの、社会ルールを教えてくれるようなことをしてくれないかという意見もあった。

※受入れ団体のヒアリングについては、別紙(資料12)でまとめる。

### Ⅲ. まとめ

本事業対象の子どもたちが多く参加する活動であったが、まずはそういった子たちが地域団体または地域住民と関わる仕組みが作れたことはとても有意義であった。事前にイベント主催者とそれぞれのブース担当者には本事業について内容と言葉の理解が十分でない子どもたちも受入れていただきたい旨を伝えたとこ、快く了承をいただいた。中には中国語を話せるので、通訳の手伝いをしてくれるブーススタッフの方もいた。そういった地域の方々の見守る中で子どもたちが大人と関わりながら仕事体験をできたことや、逆に受け入れ団体の方々がそういった子どもたちがいる現状とその関わりを改めて認識でき、協力体制が築けたことは本事業の目的に沿った形といえる。

活動に参加した子どもたちの中でも、意欲的に何度もお仕事体験に参加する子どもがいた。ティッシュ配りで「全部配ることができた!」「しっかり渡せた!」などと言って、役に立ったと感じて喜んでいる様子があったことは手伝いを通して、自己肯定感を育む機会になったともいえる。

しかし、受け入れる中で前述にあげるような様々な課題もあった。ご褒美目当てというだけでなく、本当にその仕事の意味を伝えられていたか、また社会ルールを守りながら実施できたかといえば改善の余地を残した。そこでの声掛けとして地域の方々の協力も必要であるが、それについては事前に議論して調整しておく必要があった。

今年度の本事業の目的でもあった、イベントをきっかけとして継続的体験活動の場へつなげるために、近隣にあるフリースペースみなみへの広報をおこなった。ボランティアに参加した後、保護者も含め、チラシを配布し広報したが、「また同じようなことやりたい!」「体験したいから、おうちの人に話してみる」という声はあったものの、実際にはつながっていない。しかし、普段フリースペースみなみに通っている子が遊びに来てたり、その友達や近隣の子どもたちたくさん来ているので、対象の子どもたちを継続的な体験活動の場に呼びかける機会としては効果的である。来年度も本事業の一貫として取り組んでいく。



学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究  
「みんなのわっフェスタ 2014」 についての実証研究

## 1. 本体験活動における実証研究の方針

当初のスケジュールの中では検討していなかったが、横浜市南区にあるみなみ市民活動・多文化共生ラウンジ（本事業協力機関）主催のイベントで、本事業の対象となる子どもたちと普段から接しているまたは関わりがある団体が多く参加するということが、それらの団体との協力体制構築（具体的には広報相談及びヒアリング調査の協力）をすること。本番では対象の子どもたちがスピーチコンテストに参加するということが、その子たちを継続的な体験活動の場（フリースペースみなみ）に呼びかけること。以上2点を目的として実証研究の対象イベントとして位置づけた。

また、横浜市南区青少年地域活動拠点であるフリースペースみなみの土曜日活動「フリスぺサタデー」の一つである「チームフリスぺ（みんなのわっフェスタ出店企画）」の活動の一環としても3回継続参加型のプログラムとして立ち上げ、だがしや楽校出店チャレンジ（別紙「横浜だがしや楽校（よこはま国際フェスタ 2014）」及び「フリスぺサタデーだがしや楽校出店チャレンジ」についての実証研究に記載）と同様、フリースペースみなみ内部の子どもたち（対象の子どもたちを含む）を呼び掛けた。

## 2. 活動実施概要

- 主催 みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ
- 場所 横浜市南区浦舟町 3-46 浦舟複合福祉施設 10 階
- 内容 街の先生と市民活動団体によるミニ体験（メイン）／世界の踊りと演奏  
外国人による日本語スピーチ大会／国際理解講座／民族衣装着付けと写真撮影  
子育て応援／世界のお茶試飲／世界の料理／駄菓子屋（フリースペースみなみ出店）
- 参加者等 市民活動団体 24 団体参加 街の先生 16 名参加 一般来館数 770 名

## 3. フリスぺサタデー「チームフリスぺ（みんなもわっフェスタ出店企画）」実施概要

## ■目的

- ・依頼を受けた本物のお仕事として、異学年の子どもがまざる中で、自らアイデアを出し、自分やチームの役割分担を決め、考えたことを実行に移し、振り返りまでを体験する。
- ・フリスぺで「こども企画室チーム」を立ち上げるきっかけのイベントとする。

- ・フリスぺ活動の広報、チラシの配布、大人ボランティア募集・与えられたテーマの中で、試行錯誤しながら自分を表現する。

#### ■スケジュール及び広報活動

横浜市南区青少年地域活動拠点であるフリースペースみなみの土曜日活動「フリスぺサタデー」の3回継続参加型プログラム「チームフリスぺ（仮）」として実施した。だがしや楽校出店チャレンジ同様、フリースペースみなみの月例通信11月号の中で呼び掛けを行なった。

①11/8(土) 第1回「企画会議」 参加者3名（内、外国につながる子0名）

②11/22(土) 第2回「企画準備」 参加者8名（内、外国につながる子1名）

③11/29(土) 第3回「出店本番」 参加者10名（内、外国につながる子1名）

※外国につながる子の参加は企画段階からあったが、日本語に不自由ない子であった。

<フリースペースみなみ通信11月号掲載>



### 11/8, 22, 29 「チーム フリスぺ（仮）」

10月に実施した「だがしや楽校出店チャレンジ」を発展させ、様々なイベントに関わるフリースペースみなみの子どもチームを結成することとなりました。ここでは、イベントの企画から準備、実施するところまで、すべて子どもたちが中心となって行ないます。

早速11/29に地域の方からのオファーがありました！レッツトライ☆

【日時】 第1回ミーティング：11月 8日（土） 13:00～15:00 「企画会議」

第2回ミーティング：11月22日（土） 13:00～15:00 「企画準備」

出店本番：11月29日（土） 10:00～15:00（開店時間11:00～14:00 予定）

\*29日は本施設10階の「みんなのわっ！フェスタ(みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ主催)」に出店します。

\*原則、全日程ご参加ください。



#### ■当日の様子

①～② 企画・準備の様子



④本番の様子



#### ■本プログラムに対する考察

今回、普段フリースペースみなみに通所している子どもたち（外国につながる子どもを含む）を中心にプログラム参加を呼びかけたが、企画の段階での参加は少なかったが、チラシも用いた継続的な呼びかけにより、前週の準備段階からの参加数は増加した。また参加者も前回の類似企画「だやしや楽校出店チャレンジ」に当日も含めた参加者が半数を占めた。本プログラムは、今後子どもが何かのイベントに対して自ら企画して実施していくという形としてモデルと成り得る。そして毎回参加するメンバーを中心にチームとして機能し、プログラムを引っ張っていくような存在になり、新規の子ども巻き込みながら、地域イベントに主体的に関わっていけるようにしていきたい。

#### 4. 本事業についての考察

まずは対象の子どもたちと関係性のある機関にヒアリング調査（3件）を実施し、事業の内容を話し今後の協力体制を築くことができた。具体的には翻訳チラシなどの配布や情報提供などである。また、後日個別に時間を設けて直接広報できる時間もいただけた。対象の子どもたちが普段利用している団体の時間を活用して直接内容を伝えられたことは、昨年度の広報課題を踏まえても大きな成果だったといえる。

続いてイベントに参加あるいは来館していた対象の子どもたちに継続的な体験活動機関への呼びかけとして、チラシの配布などを行なった。具体的な広報活動の詳細については以下のとおりである。

##### ①各言語翻訳チラシ（資料13）の配布

⇒今後のイベントへの広報を行なった。具体的には6ヶ国語（英語、中国語、韓国語、ロシア語、タガログ語、タイ語）の翻訳チラシを作成し配布した。当初、参加団体として来ている対象の子どもたちに配布しようと考えたが、当日タイトなスケジュールで動いていたため配布するまで至らなかった。役割があり、その指示で動いている場合に、団体代表者の了解はいただいても、当日直接の時間をいただくことは難しい。そこで、フリースペースみなみの出店ブース（駄菓子屋）に来客した子を中心に内容を伝えながら呼び掛けを行なった。

##### ②こども新年会日本語チラシの配布（資料16）

##### ③フリースペースみなみ放課後プログラム中国語翻訳チラシ（資料15）の配布

⇒このチラシであるが、フリースペースみなみに普段通っている中国人の子が作成したものである。その子は日本語の会話や読み書きもまだ不十分であるが、日本のマンガが好きでマンガ研究会というプログラムに定期的に参加している。関係性が徐々に出来てきた中でチラシ翻訳を依頼したところ、快く引き受けてくれた。他にも同じような状況の友人に直接呼び掛けてもらったりなど、彼らだからこそできることに役割を与え感謝を伝えることができた。なお、以後その子の呼びかけにより、日本語表現や会話が十分でない生徒一人が体験につながった。

最後に本プログラムの対象児童生徒の参加であるが、フリースペースみなみに元々通っている児童1名のみであった。その子は日本語が不十分というわけではなく、事業の対象児童とはならなかった。これについてはだがしや楽校出店チャレンジ同様、今後の広報活動に課題が残った。

学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究  
「大岡川光のぷろむなあと」における実証研究報告書

## 1. イベント実施概要

- 開催日時 2014年12月13日(土), 14日(日)  
16:00~20:00
- 会場 横浜市南区 蒔田公園
- 来場者数 7,000人(2日間)
- 主催 大岡川アートプロジェクト
- 協力 吉野町市民プラザ
- 助成 横浜市地域文化サポート事業「ヨコハマアートサイト2014」
- 後援 横浜市南区役所、神奈川新聞社、ラジオ日本、FMヨコハマ
- 企画内容 地域・学校・地元企業などが実行委員会を組み、光をテーマにしたアート作品の作成・展示、子ども向けワークショップ実施、屋台運営、ダンスや歌などのコンサート企画運営



## 2. イベントに向けての取り組み

(体験の場づくり)

- ・蒔田公園周辺放課後事業拠点や子ども会を中心として、地元住人でつくるアートイベントに地域の子どもたちが参加できるよう日中にイベントを企画実施。今回は、地域住民でつくる大作品を子どもたちが一緒に作成。また公園に来た子どもたちに向けた工作ワークショップの運営を子どもたちと一緒にやった。

- ・夕方、約15000個のキャンドルに点灯を行うが、子どもたちにもお手伝いとして関わってもらい、地域の大人たちと一緒に点灯作業を行った。



- ・周辺の放課後事業4拠点合同(日枝小学校キッズクラブ、南太田小学校キッズクラブ、みなみ第2ひまわり学童クラブ)で、オープニングステージに歌の発表で出演。また前の体験プログラムにも合同で参加。4拠点で約80名の児童が参加(外国につながる児童は約5名)。



## <広報活動>

### ■翻訳チラシ（英語・中国語・韓国語・タガログ語・タイ語・ロシア語）配布と配布方法 ※資料13

- 横浜市立中村小学校国際クラスに必要部数配布⇒反応1件
- 横浜市立本町小学校国際クラス母語支援スタッフより呼び掛け⇒反応1件
- 横浜市立南吉田小学校はまっ子ふれあいスクールチラシ掲示、配布
- 横浜市立中村小学校はまっ子ふれあいスクールチラシ掲示、配布
- 横浜市の国際クラスを配置している全小学校にチラシを配布するよう横浜市教育委員会から連絡
- 多文化共生ラウンジの生徒（中学生～18歳まで）にチラシ配布
- 日本語スマイルの児童生徒（小学生～高校生）にチラシ配布

### 3. ヒアリング実施概要 及び 集計

#### ■ヒアリング実施時間：14:00～17:00

#### ■通訳スタッフ2名（中国語・タガログ語）

#### ■ヒアリング人数および国籍と参加したきっかけ

##### ○児童4名 ※下記詳細

\*男：1名 女：3名

\*小3－2名、小4－2名

\*中国4名：横浜市立日枝小学校放課後キッズクラブより参加2名（8月に日本に来たばかりで日本語が十分でない）、横浜市立本町小学校国際クラスより1名（日本語会話問題なし）、通訳スタッフの子ども1名（日本語会話問題なし）

##### ○大人5名 ※下記詳細

\*子どもの学年：小3－2名、小4－1名、小5－1名、幼児1名、不明1

\*中国2名：本日参加した子の保護者1、通訳スタッフ1

フィリピン3名：通りがかり1、みなみラウンジの紹介1、通訳スタッフ1

#### ■ヒアリングシート集計

##### ○こどもアンケート

(1) 出身は <sup>しゅっしん</sup>どこの<sup>くに</sup>国ですか？（上記参照）

(2) がくねんは？（ ）年 <sup>ねん</sup>おとこ・おんな ⇒ 上記参照

(3) このイベントに <sup>なん</sup>さんかして たのしかったものは何ですか？ それは どうしてですか？たのしかったもの→（時計作り2、キャンディレイ、歌）

(4) ふだん <sup>じかん</sup>ほうかごの時間は なにを していますか？

⇒宿題の後にゲームしてる、テレビ、宿題3、復習

- (5) ほうかごや週末しゅうまつにやってみたいこと（スポーツなど）は 为什么呢？ それはなぜですか？  
⇒音楽クラブ、なわとび、
- (6) はまっ子こ、キッズクラブかよに通かよってますか？ ※小学生しょうがくせいのみ  
⇒通ってる2、通ってない2

#### ○大人アンケート

- (1) 出身しゅっしんは どの国くにですか？（ 上記参照 ）
- (2) お子様こさまの年齢ねんれいは 何歳なんさいですか？  
⇒（4歳1、5歳1、8歳2、9歳1、10歳1、不明1）
- (3) どうやって このイベントしを知しりましたか？  
例) チラシれいをみた、知り合あいから聞きいたなど  
⇒チラシ2、通りがかり1、知り合あいから聞きいた1、みなみラウンジ1
- (4) このイベントしんかに 参加かんさうしての 感想かんさうを お聞きかせください。  
⇒ここの子どもたちはとても明るくて、このイベントはとてもすてきと思います。  
Christmas tree、great、beautiful、great Christmas event  
子どもに対していい経験しになると思います。
- (5) こどもに 学校がっこう以外の時間いで やらせたいことは 何なんですか？  
⇒絵画とバイオリンをやらせたいです。  
弟あの面倒めんどうを見る、遊ぶ、公園で遊ぶ、MUSIC CLUB、
- (6) 連絡先れんらくさき（住所じゅうしょ、電話番号でんわばんごう、メールアドレスなど）  
⇒教えてくれた人4名、未記入1名

#### ■ヒアリング調査考察

イベント実施前に本事業実行委員会で話し合い、子どもと大人両方のアンケート内容を前イベント時のものと変更した。具体的に子ども用では2点の変更であるが、放課後の時間を週末まで含めることと、今年度継続的な体験活動期間に呼びかけるという目的があるので、その代表となる横浜市の全小学校にある放課後拠点（はまっ子ふれあいスクールor放課後キッズクラブ）への通っているかどうかの調査を取り入れた。大人用については、放課後を学校以外の時間と表現し、具体的に継続期間につなげるために連絡先を記入する欄を設けた。

子どもアンケートの内容を振り返ると、こちらが用意した遊びの仕掛けについては反応があり、楽しんでいたことがわかる。放課後の状況をヒアリングすると、家いでやることいが多い印象を受け、やってみたいことでは外あで遊ぶ系の意見が出た。はまっ子やキッズの放課後拠点には行いってる子と行いってない子でばらつきがあるが、調査母数が少ないため信頼できるヒアリング結果とは言えない。

大人アンケートを振り返ると、参加したきっかけはチラシを見たことや近所、知り合い、関係機関の紹介など昨年度と同等の結果となった。また、イベントの感想については好評であり、学校以外の時間でやらせたいことは、保護者の関心のあることなどの回答が多く、連絡先についても記載する方が多かった。

#### 4. 継続的な体験活動機関への呼び掛け

今回参加した中で、既に他のイベント（こども新年会）に申し込んでいた方はいたが、改めて近隣施設で行われる「こども新年会 2015」のチラシ（資料16）とフリースペースみなみの翻訳チラシ（資料15）あるいは日本語チラシを配布して呼びかけた。

その結果としては、反応は示すものの具体的につながることはなかった。

#### 5. 本事業についての考察

- ・ 昨年同様、放課後キッズクラブのプログラムとして地域イベントに参加し、周辺の放課後事業拠点とタイアップすることで、放課後事拠点を利用している外国につながる子どもと一緒にイベントに参加することができた（約2名）。



- ・ 昨年度より本イベントでは子どもの体験活動や外国につながる子どもたちについて、地域住民から構成される実行委員会に課題や現状を伝え話し合ってきたが、今年も連携をしながら彼らが参加しやすい体制を作る取り組みを実施した。具体的には、参加状況や時間に合わせてプログラムを組み立てたり、ブースを開放したりなどの取り組み、他にも集団活動（歌など）に参加しやすいよう制約の幅を広げてくれたこともある。

このように、彼らをきっかけとして、地域団体が地域の子どもの状況をより深く理解し、彼らが巻き込めるように連携しながらイベントを作り上げ、またネットワークを構築していくことは、まさに本事業の目的が達成できた形であるといえる。このような地域が出てきたことは大きな成果で、そこに対象の子どもの保護者を巻き込んでいく仕掛けや動きが出てくれば今後さらに地域社会として発展していくのではないか。



学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究  
「こども新年会 2015」における実証研究報告書

## 1. イベント実施概要

## ■趣旨

日本の正月の食事や遊びといった日本文化を子どもたちが体験できる、また地域の方々にも呼びかけ、共に地域や地域の子どもについて考える機会とする。

## ■主催 特定非営利活動法人 教育支援協会

## ■開催日時 2015 年 1 月 10 日(土) 10:40~15:00

## ■会場 フリースペースみなみ (教育支援協会横浜事務局)

## ■参加者数 子ども約 60 名 (外国につながる子は約 10 名) 保護者 15 名

## ■協力団体 2 団体 (町内会、ファイバーリサイクルネットワーク)

## ■ボランティアスタッフ 40 名

※中高生 4 名、児童生徒保護者 7 名、他は地域ボランティア

## ■企画内容 もちつき、着付け、琴・尺八体験、カルタ大会、お雑煮提供

お正月遊びブース、お正月カバゴン・おもちゃ、南京玉すだれ披露



## 2. イベントにむけての広報活動

### ■ルビ付き日本語チラシ配布 ※資料16

- 日枝小学校・南吉田小学校・中村小学校全校配布
- 南吉田小学校はまっ子ふれあいスクール配布、掲示
- 中村小学校はまっ子ふれあいスクール配布、掲示
- フリースペースみなみ参加児童生徒
- 近隣関係機関配布、掲示

### ■翻訳チラシ（英語・中国語・韓国語・タガログ語・タイ語・ロシア語）配布と配布方法

- 横浜市教育委員会から横浜市全校国際クラスへ配布指示
- 中村小学校国際クラス配布
- 南吉田小学校はまっ子ふれあいスクール配布、掲示 ⇒ 参加3名
- 中村小学校はまっ子ふれあいスクール配布、掲示
- 多文化共生ラウンジの生徒（中学生～18歳まで）にチラシ配布  
⇒ 4名参加

## 3. ヒアリング実施概要 及び 集計

### ■通訳スタッフ3名（中国語2名、タガログ語1名、英語1名）

※昨年度この3言語しか需要がなかったため、以上言語のみ配置

### ■ヒアリング人数および国籍と参加したきっかけ

- 児童5名 ※下記内訳
  - \*男－2名 女－3名
  - \*小2－2名、小3－1名、小5－3名
  - \*中国3名：はまっ子関係
  - \*フィリピン2名：通訳スタッフの子どもおよび友人
- 保護者1名 （タイ）

### ■アンケート集計および結果 ※以下質問内容とその回答

<こどもアンケート>

- (1) 出身 (2) 学年、性別 ⇒上記で記載
- (3) このイベントに参加して楽しかったものとその理由
  - ・おこと2名  
⇒学校の音楽クラブに入っていて趣味があった。興味あった。
  - ・すごろく

- ・着物の着付け2名 ⇒ きれいだったから。
- ・おもちゃの交換 ⇒ たのしかった。
- ・もちつき2名 ⇒ たのしい

(4) 普段放課後は何をしているのか。

- ・遊んでいる2名
- ・勉強
- ・音楽クラブに行っている
- ・学習ゲーム
- ・公園に行っている
- ・夏はプール2名

(5) 放課後や週末にやってみたいこととその理由

- ・ダンス
- ・スケート
- ・サッカー

(6) はまっ子、キッズクラブに通っているか。

⇒ 5名とも通っていない。

<大人アンケート>

(1) 出身 (2) 年齢⇒ 8歳

(2) イベントを知ったきっかけ

⇒ 多文化共生ラウンジスタッフからの紹介

(3) イベントの感想

⇒ おもしろい

(4) こどもに学校以外の時間でやらせたいこと

⇒ 公園で遊ぶ、ゲーム

(5) 連絡先

⇒ 記載してくれた

## ■ 考察

まず言語数については以上3言語で対応できた。保護者も参加可能なイベントということもあり、保護者が子どもに簡単に内容を伝えながら楽しんでいた。通訳はあくまで補助という立ち位置であった。

参加者の中で中国出身3名が日本語の表現や会話が難しい子であったが、その子たちも含めておことや着付け、もちつきを楽しんでいたことは、本イベントの目的である日本文化を体験し楽しむという目的は達成できているといえる。また回答については抽象的な答えが多く、実際に何をやっているのかはあまり見えてこなかった。はまっ子、キッズクラブのような放課後の時間に体験活動にできるような機関へは参加していない。

#### 4. 当該事業についての考察

- ・参加した児童については昨年度同様、今回様々な日本文化を体験してとてもいい機会になったと言っていた。学校以外の時間で友人と集まる機会が少ないと感じている子ども達もいて、そのような集まりの場遊びの場を求めていることも改めてわかった。
- ・今回本事業の対象となっている日本語の会話が難しく表現やニュアンスについても不安がある子（2名）が地域ボランティアと関わる場面があった。具体的にはお琴体験を提供してくれたボランティアから指導を受けながら「さくら」を演奏していた。普段から学校の音楽クラブに通っているということもあり、琴の扱い方は知っていたが、音楽という言葉が必要ない方法を意思疎通ができる企画は、今後対象児童を含めた体験活動の内容を考える際にも参考になる。ボランティアからは「言語は関係なく、教えたらどンドンできようになる。すごいね！」という感想をいただいた。また、2名はそのボランティアとの関係性から「南京玉すだれ」を披露する際に補助スタッフとしても役割を受け持った。その経験も含めて、地域市民との言語を飛び越え体験活動ができた有益な機会であったといえる。



対象児童が地域ボランティアとコラボで演奏している様子。



南京玉すだれの補助スタッフをしている様子。

また、イベントの中でお雑煮とおもちを準備したが、その調理チーム（中高生）に、フィリピンに来たばかりで日本語の会話がまだ十分でない中学生がいた。普段から体験活動に参加する機会はあるのだが、彼は言葉でなく表情や雰囲気、絵などを通してコミュニケーションをとっている。当日も調理の準備をする際に、スタッフの指示を受けながら楽しみながら取り組んでいた。対象児童生徒がよりイベントに主体的に関わる意味でも、こういったボランティアとしての参加も今後整える必要があると考える。



おもちの付け合わせを準備している様子。楽しんでやっていた。

- ・ イベントを企画する際に、協力団体や地域ボランティアに対象児童生徒（日本語の表現やニュアンスが十分でない）子の状況を伝えたところ、その子たちのためにもより本格的な日本文化を体験できる活動ができないかと企画内容が増えた。具体的には着付け、お琴体験などである。このように受け入れ側も彼らについて何とかしよう、そしてつながりができたことは成果といえる。
- ・ 今回広報するにあたり、普段から対象児童がたくさん通っている近隣のはまっ子ふれあいスクールにも協力を依頼した。はまっ子は居場所的な役割が強く、体験活動の機会については不足しているという意見があった。そこでこのような色々な体験ができるイベントは必要性があり、ぜひ広報したいと今後の協力体制も構築された。また、そこでのつながりを通して具体的に外国につながる子どもたちの問題について地域でどう取り組むかを話し合う場面も設けられた。近隣の日本語教室を始め、今後このような機関との連携は本事業を進めるにあたり大切な要素となる。

学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究  
「横浜橋通商店街でお店の人のはたらいている姿を見よう！」  
についての実証研究

## 1. プログラム実施概要

※内容については、最後のページ参照

### ■参加者数 ※全て小学生

- ① 10 名参加（外国につながる子 5 名、うち日本語が不自由な子 2 名）
- ② 8 名参加（外国につながる子 3 名、うち日本語が不自由な子 2 名）
- ③ 7 名参加（外国につながる子 2 名、うち日本語が不自由な子 2 名）
- ④ 6 名参加（外国につながる子 3 名、うち日本語が不自由な子 2 名）

※今回参加した外国につながる子ども（①のうち 4 名、②～③のうち 2 名）は、普段から横浜市南区で活動している日本語教室に通っている子どもたちで、先のイベントで協力体制を結べたことにより今回直接広報する機会をいただけた。なお、①に参加した上記機関からの外国につながる子 2 名の参加者と、①,②,④の会に参加している外国につながる子 1 名は、日本語の会話も流暢で滞在年数も長く日常のコミュニケーションについて問題がなかったため、今回ヒアリング調査対象から外して考えた。

## 2. ヒアリング調査分析

4 回継続型のプログラムであるが、初回到放課後の調査アンケートを実施した。また、本プログラムは文部科学省初等中等教育局「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」のコンテンツとしても関係しているが、対象児童に対してキャリアの目線からのアンケート調査（4 回毎回実施）の結果も示して、その子たちにどのような学びがあったのか考察する。

### I. ヒアリング調査 1（放課後の過ごし方についての調査）

■方法：初回到集計 集計数 2 名

■アンケート内容と結果

- (1) 出身はどこ国ですか？（中国 2）
- (2) がくねんは？（小 4、2 名） おとこ 0 名 おんな 2 名
- (3) ふだん ほうかごの時間は なにを していますか？

宿題 2、長なわ練習 1

(4) ほうかごや週末にやってみたいこと（スポーツなど）は 为什么呢？

それはなぜですか？

ともだちといつしょにあそび2

(5) はまっ子、キッズクラブに通ってますか？

週1回1名、行ってない1名

#### ■考察

放課後の過ごし方については、宿題、やりたいことについては具体的な内容が出てなかった。ある関係機関に聞いたところ、対象児童生徒は自由度のある放課後を過ごせていない（家にいることが多い、学習量が多いなど）子もいるようである。また、具体的な内容については出てこなかった。はまっ子を通ってはいるが居場所としての利用で、そんなに頻度は多くないという結果が出たが、調査母数が多くなく課題である。

## II. ヒアリング調査2（キャリア教育視点からの調査）

■方法：全ての回で全参加者から集計。

集計数 ①10名 ②8名 ③7名 ④6名

※本事業の対象となる児童（日本語の表現が十分でない）はうち2名いるが、どのような回答が得られたか他の子と比べられるように以下に記載。

■アンケート内容と結果 ※生徒の記載内容をそのまま抜粋

(1) 学校名、学年、性別 ⇒ 「1. プログラム実施概要■参加者数に記載」

(2) 今日はどんな気持ちでプログラムに参加しましたか？

【対象児童2名の回答】

①・たのしい気持ち

・うれしい気持ちで参加します。

②・感謝の気持ち

・たのしい気持ちで参加しました

③・知らない

・わからない

④・たのしい

・とでもたのしいの気持ち参加しました。

【他の子の回答 ※数名抜粋】

①・しごとをしている人はどうやっているのかしりたいから 小5女子

・お店ではたらいてみたい！ 小3女子

・みんながえがおになったり、みんなのやくだてたいという気持ちで参加しました。 小5女子

②・「今日も安楽さんのためにいいことを考えるぞ〜。」と思ってきた。

小6男子

③・ぼくのチームではポスターを作るので、完成させたい気持ち。小4男子

・かんせいさせる 小5男子

④・最後の仕上げと発表をがんばる 小5女子

・ありがとうの気持ちをとにかく伝える！ 小6男子

・感謝を伝える気持ち。 小4男子

(3) 【対象児童2名の回答】

①今日参加して商店街の仕事をどう感じましたか？

・たのしいとうなぎやくところがあつい。

お客さんをごはんをすくなめにいで、いった。

・たのしい

②今日の感想

・たのしい

・うれしいです

③今日の感想

・もうすぐおわり、たのしい。

・すごくたのしいです。

④今回のプログラムを通して 商店街の仕事を どう感じましたか？

・たのしい

・すごくたのしい

【他の子の回答 ※数名抜粋】

①今日参加して商店街の仕事をどう感じましたか？

・初めて商店街の仕事をして大変だった。 小4男子

・お昼どきがいちばんこむと思った 小5女子

②今日の感想

・みんなでたのしくできた 小5女子

・ポスターを作った。一人だけどだいぶ進んだ。 小4男子

・周りでしゃべっている人がいるのにとめられなかったから、6年としてみともないと思った。 小6男子

③今日の感想

・うまく食品サンプル作品がつくれた。 小6男子

・つかれた！ 小3女子

・ぼくのチームは、ポスターを作るので、完成させたい気持ち。

小4男子



④今回のプログラムを通して 商店街の仕事を どう感じましたか？

- ・自分が社会にできるため大切に感じた。 小4男子
- ・いそがしくて新しいメニューを作ることに手が回らないくらい。大変だということがわかった。 小6男子
- ・大人は仕事をするのがあたりまえだと思っていたが、ぼくたちのためだと改めて分かった。 小4男子
- ・今の商店街がないと生活がなりたなくなるから大切だと思った。 小5女子

(4) 【対象児童2名の回答】

①今日の感想、次に向けての意気込みなど。

- ・きょうは、いろんな仕事ができ、たのしかった。つぎまた、がんばります。
- ・今日は、いろんな仕事できてたのしかった。

②次に向けての意気込みを書いてください！ ※2名のうち1名のみ記入

- ・がんばります。

③次に向けての意気込みを書いてください！

- ・つぎは、がんばります。
- ・わからないです

④今回のプログラムに参加して 自分の将来働くことについて 何か考えましたか？

- ・わたしは将来働くことは、パンやなどいっぱいはたらく。
- ・わたしは将来はレストランあげたいとおもいました。

【他の子の回答 ※数名抜粋】

①今日の感想、次に向けての意気込みなど。

- ・面白かったところもあったし、うれしいこともあって、自分の良いけいけんになったと思う。 小5女子
- ・やくざいしは精力もつかう、頭もつかっていた。 小5女子

②次に向けての意気込みを書いてください！

- ・よーし、作るぞ～！！ 小6男子
- ・次は、ポスター作りの本番なのでがんばる。 小4男子

③次に向けての意気込みを書いてください！

- ・がんばってくださいというきもちをこめてわたしたいと思います。 小6男子
- ・次は完成させて薬局の人を喜ばせたい。 小4男子

④今回のプログラムに参加して 自分の将来働くことについて 何か考えましたか？

・ニートやフリーターにならないように、安楽のおじちゃんやおばちゃんみたいに、がんばりたいと思った。 小6男子

・いろんな人に喜んでもらえるような仕事がしたいと思った。 小4男子

(5) その他 何かあれば 自由に書いてください。

※対象児童2名のみ①の回に記入、他の子の記入はなし。

①・お金を計算のやり方をおしえてもらいました。

・おかねを計算のやり方をおしえました。

### ■考察

今回のヒアリング調査からもわかるように、対象児童の場合日本語の表現が他の子と比べると抽象的であり、文法が間違っているところもある。感想などを聞いていても、もっと伝えたいと考えているのに伝えることに自信がなく躊躇してしまう様子もあった。また、質問の意図が伝わっていたかという課題もある。今回、なるべく他の子と同じ条件としてプログラムを実施するため通訳配置はしなかったが、ヒアリング調査の部分のみだけでももう少し意見を抽出できるような体制整備が必要であったと考える。

### 3. 対象児童プログラム実施まとめ

今回対象児童のグループは「うなぎ八州」という店で職業体験を行ない企画を考えたが、そのグループに関わった横浜市立大学「横浜橋通プロジェクト」チームの学生スタッフが2日目「作戦会議」の内容をまとめたものを以下に転記する。

#### 【うなぎ八州】

##### 1. 話し合った内容

企画については考えていなかったようだったので、まず職業体験を通じていいと思ったところ・直したほうがいいところを挙げていった。その結果いいところが多くできたため、それをまとめてチラシ（新聞）としてお店に渡すことにした。

直したほうがいいところとしてアルコール消毒の置き場所がわかりづらいことがでたのでわかりやすくなるように目印を作りたいという意見も出た。また、外を歩いている人からうなぎが見えることがいいこととして挙がり、それをもっと見やすくするために、外にメニューを置きたいということも挙がった。

##### 2. 企画内容

- ・チラシ作り（製作中）
- ・アルコール消毒の目印（作成済み）←ラミネート加工する
- ・メニュー作り

### 3. 感想

企画決定まで到達したのでよかった。最初はなかなか意見がでなかったが、最終的には2人とも積極的に発言してくれたり、チラシを作ったりと楽しそうに作業してくれた。アルコール消毒についてや、配膳など、目の付け所が素晴らしいと思った。

### 4. 反省

ある程度子供たちが作るものを予想して、画用紙や折り紙・色鉛筆など工作に必要なものは準備しておいてあげるべきだった。思っていた以上に多くの企画をやりたいといわれてしまった。すべてやらせてあげたいが、時間の都合上できるか不安がある。次回の進行具合によってはメニュー作りが困難かもしれない。

#### ※確認事項

- ・メニューがわからないので商店街に見に行きたいといわれた。次回までにこちらで確認しておくべきか。子供たちにいってもらっていいのか。(うなぎの写真も撮りに行きたいといわれた。こちらは前回の活動の写真を撮りに行くことで一応納得してもらった)
- ・次回の持ち物：画用紙・折り紙・色鉛筆・はさみ・活動の写真

## 4. 当該事業における考察

本プログラムでは、対象児童を普段から抱えている機関との協力体制・連携、地元商店街で働いている人との連携、継続的な体験活動の機会、他の子となるべく同じ土俵でのプログラム実施という、本事業において様々な要素が詰まった核となるものであった。

まず日本語の表現やニュアンスが不十分な子が2名参加したが、そのきっかけはその2名は普段から通っている日本語教室の時間内に直接呼び掛けができたことである。利用者が集まっている時間に個別の時間をいただけ、通訳の手伝いもあり広報したところ、すぐに日本語が流暢である子も含めて6名の参加申し込みの意向があった(受け入れ人数の関係もあり、実際の参加者はそこから4名)。その団体の代表者からも「子どもたちに色々な体験活動を実施するのはいいことだ」、「普段その子たちを見ていて学習だけでは物足りなく感じている」という意見があった。枠にとらわれず、目の前の子ども達のために何ができるのか、そのために必要なことは取り入れていく意向があることは、今後本事業を進めるにあたり地域団体、ひいてはそこに参加している地域市民との連携という面において、大きな前進といえる。なお、そこでは中国出身の子が多いということで中国語の翻訳チラシ(資料14)を作成し、それを活用して当日呼びかけを行なった。それについては、理解もしやすくなったのか効果はあったと考えられる。

続いて地元商店街との連携である。今回2名を受入れてもらった店舗は「うなぎ八州(うなぎを取り扱う飲食店)」であるが、当初2名の参加が決まった時に、日本語の意思疎通が難しいかもしれないという旨を伝えたところ、「そういう子が多い地域だということはわかっています。大丈夫ですよ」と快く引き受けてくださった。本番中も子どもたちの様子を見ながら少しずつ必要なことを教え、レジの使い方など少し発展した内

容も伝えていた。このように本プログラムがきっかけとなり地域の大人で地域の子どもを面倒見ていくという一つの形が見えたことは成果である。

プログラムの内容であるが、2回目以降に具体的にどういうことをするのか初回終了後にはよくわかっていなかったようである。しかし回を重ねる毎に、楽しみながらよりのめりこんでプログラムに参加していたことがわかる。2回目の作戦会議ではお店で困っていること、こうした方がいいことを真剣に話し合い対処方法を考え、呼び込みのチラシ作成にしても一つ一つデコレーションしながら手作りにしたり、家にも持ち帰って作業を続けていた。最終日にはお世話になったうなぎ屋の店主にしっかりと感謝の気持ちを伝え、職業体験をさせてもらった店舗にチラシを設置しに行った。このように継続的なプログラムへの参加の中で、地域の大人との関わりや体験活動の主體的な関わりが出てきたことは、本事業において重要な実証研究成果の一つといえる。

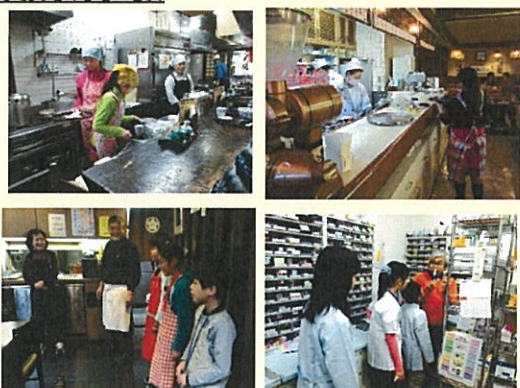
ところでなぜ4回の継続性のあるプログラムに参加したのか、理由として「無料参加」と「友人と参加できる機会」ということが考えられる。

近隣学校（外国につながる子どものパーセンテージが約半分）の国際クラス担当教諭からの意見を伺うと、普段から放課後など塾に行くか家にいることが多い対象児童が大勢いるという中で、子どもたちは学校のない時間に安心して集まれる場所を求めているのではないかと意見があった。今回参加した2名にヒアリングしても、友達と遊べる場所を求めており、毎回のプログラム終了後には居場所としてのフリースペースみなみで遊んでいた。そこで普段のフリースペースみなみの放課後プログラムや今後の土曜日活動「オリジナルカクテルを作ろう！（資料9）」に呼びかけたが、どちらも有料ということで参加はしないとのことであった。費用の壁というのは今後の検討事項の一つである。

また、今回申込み段階でも「友達と一緒にグループでなくては絶対に参加しない」とあったが、「何をやるのかはよくわからないが友達と一緒に楽しいことをやれる、しかも無料で！」という考えがあることがわかった。対象の子どもたちが何を求め、どういうきっかけがあったら参加するのかが明確化した本事業にとって大変有益であったプログラムであった。

# 横浜橋通商店街で お店の人のはたらいている姿を見よう！ 実施概要

**1月31日(土)**  
**職業体験**



実際にお店に入ることによって仕事について学びました。

**2月14日・21日(土)**  
**作戦会議・準備**



お店の方に対して自分たちになにができるのかを考え、企画の内容をまとめて協力して作りました。

**2月28日(土)**  
**アイデアを実現させてみよう**



企画した内容を商店街の方々の前で発表しました。作ったものはお店の方々にプレゼントしました。

## 概要

横浜市立大学三輪研究室と滝田研究室所属の学生が行っている地域活性化プロジェクトと、フリースペースみなみを運営しているNPO教育支援協会の共催で「横浜橋通商店街でお店の人のはたらいている姿を見よう！」を実施しました。

4回継続参加型のプログラムで、初回は商店街での職業体験、2・3回目は作戦会議と企画準備、最終回は企画した内容の発表を行いました。

## 目的

- ◆ 商店街に興味や愛着を持ち、地域との交流が深まること
- ◆ 自分が住んでいる地元商店街の仕事に目を向けることで、社会に様々な仕事と役割があると認識すること

## 結果

全4回のプログラムを通して、仕事の難しさと責任について知ることができました。

最終回では、商店街の方々に感謝の気持ちを表すために、メッセージカードやお店の紹介新聞、ポスターやチラシ、新メニューなどを作りました。

参加者の中には、学校が異なるため初めて顔を合わせる子がいたり、日本語の表現が十分でない子もいましたが、協力して取り組んでいる姿が見られました。さらに、商店街の方々とも親しい関係性を築くことができました。

今後も地域活性化の一環として横浜橋通商店街と地域の交流を目的とした企画を行います。

参加者：小学生10名

主催：横浜橋通りプロジェクト(横浜市立大学三輪研究室・滝田研究室)

フリースペースみなみ(NPO教育支援協会)

協力：蕎麦處安楽・うなぎ店八舟・SweetShopえどや・高橋薬局・横浜橋通商店街の皆様

フリースペースみなみ 土曜の活動

# お茶会をひらこう！



みなさん、お茶はよく飲みますか？

いま にほんちゃ か ふだん せいかつ なか  
今は日本茶もペットボトルでも買うことができ、普段の生活の中にありすぎて、

いしき ちゃ れきし さほう  
意識することはないかもしれません。ですが、お茶にも歴史や作法があります。こ

きかい にほん でんとう  
の機会に日本の伝統にふれてみませんか？

こんかい りょくちゃ ちょうせん うち どうく つか ちゃ  
今回は、緑茶に挑戦します！ お家にある道具を使って、おいしいお茶をいれ

ほうほう たいけん ちゃ かし ぎやく だ  
る方法を体験します。お茶にぴったりなお菓子をそえて、お客さんに出せるよ

うになってみましょう！ おともだちとお茶パーティーも開けるようになりますよ！

## 日程

### 第1回：平成27年1月17日

お茶のおもてなしを体験し、お茶のいれ方・お菓子の出し方を学ぼう！

### 第2回：平成27年1月24日

家族や友達をご招待して、心を込めたおもてなしをしよう！



【時間】両日とも 13:00~15:00

【参加費】500円×2回

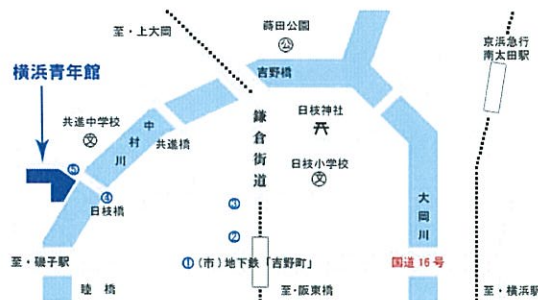
【対象】小1~6

【場所】横浜青年館

※両日とも現地集合・現地解散となります

【お申込み】フリースペースみなみ

窓口 または 電話 (045-243-3739) 担当：友安まで



資料-8

あの大好評企画が再び登場！

# コミュニケーション・ゲーム **CG**

Communication Game

## 『狙え！コミュニケーションの達人』

【日時】

2/14 (土)

10:00 ~ 12:00

参加費：500円



さらに面白くなったゲーム達がみんなの挑戦を待つ！！  
みんなで協力して関門をくぐり抜け、10個のスタンプ  
を集めてステージクリアを目指せ！

☆参加申し込み受付中☆

お電話か窓口でお申し込みください。

045-243-3739

見事ステージクリアできたら、  
コミュゲー認定名刺をゲット！





# 土曜の活動 「フリースペサタデー」 オリジナルカクテルを作ろう！

おとなの大人が飲むちょっとオシャレな飲み物「カクテル」。今回はプロのバーテンダー（カクテルを作る人）が来て、皆さんにカクテルの作り方を教えてください。想像をふくらませて、自分だけのオリジナルカクテルを作ってみませんか？

- 【日時】 3月7日（土） 13：00～15：00
- 【参加費】 500円      【対象】 小 1～6
- 【定員】 15名      【場所】 フリースペースみなみ
- 【協力】 花鳥風月
- 【お申込み】 窓口 または 電話（045-243-3739）



※カクテルを作るのはジュースで行います。アルコール類は一切使用しません。



# 土曜の活動 「フリースペサタデー」 オリジナルカクテルを作ろう！

おとなの大人が飲むちょっとオシャレな飲み物「カクテル」。今回はプロのバーテンダー（カクテルを作る人）が来て、皆さんにカクテルの作り方を教えてください。想像をふくらませて、自分だけのオリジナルカクテルを作ってみませんか？

- 【日時】 3月7日（土） 13：00～15：00
- 【参加費】 500円      【対象】 小 1～6
- 【定員】 15名      【場所】 フリースペースみなみ
- 【協力】 花鳥風月
- 【お申込み】 窓口 または 電話（045-243-3739）



※カクテルを作るのはジュースで行います。アルコール類は一切使用しません。





## 学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究 「外国につながる子どもたちの体験活動推進ワークショップ」 実施報告書

### 1. 実施概要

日時： 2015 年 2 月 7 日（土） 11:00 ~ 12:50

会場： JICA 横浜セミナールーム 5（25 名収容）神奈川県横浜市中区新港 2 丁目 3-1

目的： ①参加者に体験活動の大切さを伝える。

②外国につながる子どもたちが体験活動に参加することの有用性を参加者に伝える。

③外国につながる子どもたちが関わる体験活動について具体的な取り組みを参加者と自由に話し合う。

内容： NPO 教育支援協会では「だがしや楽校などの体験活動の推進による放課後における外国につながる子どもたちの学び推進事業」を受託し、昨年度から体験活動への参加推進、効果検証を始めとする研究を行なっている。本企画では、具体的な体験活動の事例発表、昨年度の事業報告をした後、参加者とワークショップを行い、今後の具体的な取り組みについて自由に話し合う。

参加対象：外国につながる子どもたち及び保護者、および関わりがあったり興味のある団体や一般の方々

参加者：10 名 ※途中 3 グループに分けて話し合い

### 2. 当日の流れ ※参考資料として「フォーラムスライド」を報告書の最終に添付する。

11:00~11:10 始めの挨拶、参加者自己紹介

11:10~11:30 体験活動事例発表

①だがしや楽校、フリスペサタデー概要とエピソード

※写真は②の内容と関連したものを載せる

②体験活動のどの子どもにも大切だということを伝える

- ・ヒト・モノや実社会に実際に触れ関わりあう「直接体験」の機会
- ・異世代、異年代交流ができる、他者理解
- ・自分を自由に表現できる、それが他者から認められる場となる

11:30~11:40 昨年度の事業取り組みについての報告

## 【昨年度について】

### ①実施内容

- ・ 横浜市の外国につながる子どもたちへの支援策と、日枝小学校、南吉田小学校国際教室及び母語支援体制について調査をした。
- ・ 主に翻訳チラシを用いて、外国につながる子どもたちをイベントに呼びかけ、放課後活動や地域イベントとの関わりについて調査した。
- ・ 地域イベントに参加した外国につながる子どもたちおよび保護者に参加効果を検証するアンケートを実施した。

### ②広報の課題

- ・ 調査母数が少なく、すべてを含めた意見と言えない。
- ・ 翻訳チラシはあまり意味が無い。
- ・ イベントに来るためには、保護者の安心感や信頼が必要、実施場所への不安もある。
- ・ 外国につながる子どもが多く集まる場所を調査しきれていない

### ③価値観の課題

- ・ 翻訳していない言語に方々に疎外感を与えるかもしれないという懸念がある。
- ・ 継続的にイベントに呼びかけるためにポイントカードなどの導入を考えたが、それが逆に外国につながる子どもたちに対して色を付けるという議論になり配布を停止した。
- ・ 外国につながる子どもでも、日本で生まれ育ち自分がそう認識していない場合がある。
- ・ 体験活動について親の意識が違う。放課後、家で母国語のテレビを見ている。勉強ばかりしているというエピソードがあった。

## 【今年度について】

昨年の課題を解決するために、今年度の方向性を以下とした。

- ・ 対象を「生活言語が全くできない、あるいは少しはできるが日本語ニュアンスの理解が十分とは言えない、また保護者の言語力や生活状況も関係し、今後もそれらの十分な習得が難しい児童生徒」と定義した。
- ・ ヒアリング調査について、地域の大人や団体など受け入れ側の意見も取り入れる。
- ・ 学校敷市内など安心感のある場所での実施を検討する。
- ・ イベントをきっかけとして、継続的な体験活動への参加を促す。
- ・ 国際教室以外の日本語関係機関にも広報をする。

☆今まで、外国につながる子どもたちは体験活動の機会が少ないだろうと一方的に思い込み、イベントに参加させることに集中していた。しかし・・・。

11:40～12:00 ワークショップ（大下）

※一人ひとりそもそも違うということを意識する。

12:00～12:10 外国につながる子どもたちがいることによりさらに良くなるのでは。

#### ①提言

- ・色々な人がいるということを体感することができる。
- ・海外の文化を知ったり、他者と関わる力を磨くことができる。
- ・体験活動では言語に関係なく一緒に楽しむことができると、子ども自身が認知できる。

#### ②具体例

- ・新年会⇒言語に関係なく一緒に体験活動ができ、ゲームなどで他者と関わることを学び、色々な人がいるということを認知できる。

☆だから、外国につながる子どもたちにも体験活動が大切なんだ！

12:10～12:30 一人ひとり今日の感想を発表

☆一人ひとり違う価値観で集まったが、ワークショップを通して感じたこともそれぞれが違う、そのことをお互いを知ることで、改めて「一人ひとりそれぞれ違うんだ」ということを意識するようになる。

12:30～12:40 終わりの挨拶、教育支援協会の体験活動広報

12:40～12:50 片付け、机イスを元の状態にする

### 3. 参加者の感想

- ・継続的活動が良い、信頼から安心につながる。
- ・外国につながる子どもだからと先入観にとらわれない、地域のコミュニティが大切。
- ・一緒にいる人によって違うかもしれない、子どもが心の壁をどう乗り越えられるかが課題。
- ・職業体験のプログラムがおもしろい。
- ・自分たちも障害のある子を対象にするプログラムを実施するが、共通の目的があればうまくいく。
- ・大人も多様性があり「自分は自分でいいんだ」と感じる機会が必要。
- ・価値観の違いというところに「日本人らしさ」という考え方があるのではないかと。誇りがある。
- ・私立の学校はあまり関係ない問題。チラシにルビなどは設けない。

#### 4. 当該事業における考察

昨年度は本フォーラムにおいて、事業の報告とともに「どんな放課後が魅力的に感じるのか」をテーマに体験活動の中身や事業の課題（広報の課題など）について参加者と話し合ったが、本年度は、文部科学省で方針を示している「体験活動の教育的意義（以下参考 URL）」に沿って、その具体的事例を紹介しながら体験活動の意義や効果を改めて参加者に感じてもらう機会を設けた。その後、外国につながる子どもたちがいるからこそ体験活動に生きる要素を提言し、それについて参加者と話し合った。話し合いの中で、体験活動の本来の要素である「一人ひとりが違う」という考えの共有ができ、外国につながる子どもたちも含めて地域の子どもの面として面倒見ていくために具体的な活動についての話、そして彼らがいることによる有用性についても共有できたことは、本フォーラムの目的を果たせたといえる。来年度はその視点を広く地域社会に広げていけるような提言を、本事業を通して構築されてきた学校や地域の関係機関ネットワークを活用しながら広めていく。

※文部科学省「体験活動の教育的意義」参考 URL

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055/003.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055/003.htm)

## 外国につながる子どもたちの 体験活動推進ワークショップ

よこはま国際フォーラム2015  
NPO教育支援協会

## 目的

- ① 体験活動の大切さを共有
- ② 外国につながる子どもたちが体験活動に参加することの有用性について考える。

## 今日の流れ

- ① 体験活動概要、事例紹介
- ② 文科省委託事業報告
- ③ ワークショップ
- ④ 感想(全員)

## 体験活動概要

- ① 現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上
- ② 問題発見や問題解決能力の育成
- ③ 思考や理解の基盤づくり
- ④ 教科等の「知」の総合化と実践化
- ⑤ 自己との出会いと成就感や自尊感情の獲得
- ⑥ 社会性や共に生きる力の育成
- ⑦ 豊かな人間性や価値観の形成
- ⑧ 基礎的な体力や心身の健康の保持増進

※文部科学省HP「体験活動の教育的意義」より抜粋

### 事例紹介① だかしや楽校 (横浜国際フェスタ2014, ふくしまキッズ)



① 自分みせ(占い屋さん)  
自分の得意なことや好きなことを表現しました



② 人との間わり  
チラシ配りのお仕事  
渡し方が難しいな...



③ 社会参画  
お仕事したら、エコマネーをもらえます。  
それを使って駄菓子屋と交換。  
駄菓子屋の店員も子どもたちのお仕事です。

### 事例紹介② 毎週土曜日 フリスパサタデー



ものづくり「ガンボール道路」  
大きな道路を作りました。  
最後はスタートからゴールまでの  
タイムアタック!



「お茶会」  
親や知り合いを  
呼び掛け、お茶  
会を開きました。

「地域プログラム」  
地元の商店街のお店で職業体験。  
自分達が何をできるのかを企画します。

## 外国につながる子どもたち

親の仕事の都合で日本にやってきたり、国際結婚によって生まれたいなど、「外国籍」「二重国籍」「日本国籍取得者」の状況にある子どもたち。

## 委託事業概要(昨年度)

- ① 外国につながる子どもたちの現状を調査する。
- ② その子たちを地域イベントに呼びかけ、参加した効果を検証する。

## 昨年度の課題

- ① 広報の課題
- ② アイデンティティの課題

## 事業概要(今年度)

- ① ヒアリング、広報方法の改善
- ② 実施場所の検討
- ☆③ 継続的体験活動への参加推進

## ワークショップ

外国につながる子どもたちは体験活動の機会が少ないだろうと勝手に思い込んでいた。しかし…

「彼らがいることによって活動がより良くなるのでは？」

## 提言

外国につながる子どもが参加することによって、体験活動の効果がより出ることになる

⇒ 「彼らが体験活動に参加することは大切」

## 参加効果

- ① 多様性の認識、理解
- ② 多様な他者と関わる力
- ③ 人とのつながりの実感

## 具体例 1/10(土) 子ども新年会2015



# 感想(全員)

# ありがとう ございました！

## 平成 25 年度学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究

## 成 果 報 告 書

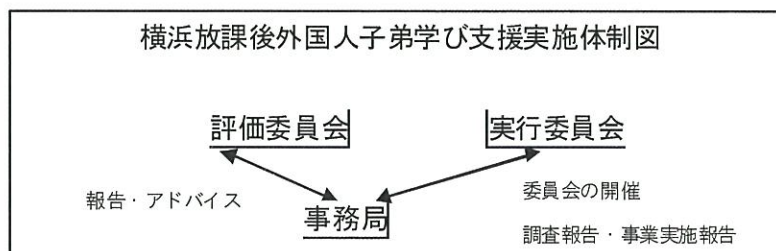
## 1. 実証研究組織の構成

氏 名	所 属 ・ 役 職 等	備考欄
吉田 博彦	NPO 教育支援協会 代表理事	実行委員長
森 博昭	横浜市教育委員会指導企画課指導主事	実行委員
大内 美智子	横浜市立日枝小学校 校長	実行委員
大下 裕子	横浜市立日枝小学校放課後キッズクラブ 主任指導員	実行委員
木村 博之	公益財団法人横浜国際交流協会 みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ	広報協力
市川 靖	NPO 教育支援協会	事務局 責任者
奥田 宏明	NPO 教育支援協会	事務局担当
小正 和彦	横浜市立幸ヶ谷小学校 校長	評価委員
寺脇 研	京都造形芸術大学教授	評価委員
林 規生	公益法人日本英語検定協会	評価委員

## 2. 事業の実施体制（再委託先まで含めた事業実施体制について図示すること。）

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

事業実施のために横浜放課後外国人子弟学び支援実行委員会を設置し、事業を進めていく。また、評価委員組織を設置し事業評価を行う。





### 3. 実証研究のスケジュール

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実行委員会			■10/2 第一回 基本方針の確認	■11/25 第二回 進捗状況の報告と課題検討			■2/3 第三回 事業総括	
事業実施		☆9/28 蒔田公園で遊ぼう！One Day キッズパーク	☆10/19, 20 だがしや楽校（よこはま国際フェスタ 2013）	☆10/27 よこはまバシインターナショナルフェスタ	☆12/14 大岡川光のぷろむなあと		☆1/12 こども新年会 2014	
評価委員会			■10/2 第一回 事業内容の検証・評価方法への提言				■2/3 第二回 事業全体の評価	
事務局	■8月末 事業計画作成	■9月上旬 委員会設置 評価方法の策定 各関係機関へのヒヤリング実施		■9月下旬 事業実施への準備 関係者との連絡・調整			■1月末 調査結果まとめ	■3月 決算報告 報告書の作成

### 4. 選択したテーマに応じた解決すべき課題

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

この10年の間に、横浜市においては外国人子弟の数が激増している。市は市立の小中学校に「外国籍5人で1人、20人以上で2人」の担当教師を置く「国際教室」を設け、中国語など外国語のできる教師やボランティアが個別指導で補習を行っている。しかし、それでも「20人いて卒業までに1人が習得できるかどうか」（市関係者）という状況にある。政府には、経済産業省に代表される「外国人を国内労働市場に積極的に受け入れるべきだ」という声と、厚生労働省に代表される「国内の労働者のことを考えれば、受け入れるべきではない」という二つの相反する声があるが、市の中国人コックらは特殊技能労働者としてインドネシアやフィリピンからの看護師らと同様、「積極受け入れ」の声に押される形で入国しているが、現実に移動するのは単に「労働力」ではなく「人とその家族ら」であり、そこに、多くの問題が発生している。

外国人労働力の受け入れの是非を巡っては、さまざまな論点がある。そのことについては日本政府ができるだけ早く基本方針を提示してほしいが、現実の地域社会においては「労働力」の問題ではなく、「人間」の問題が噴出しており、家族を含めた子弟の日本社会への適応に向けた教育などの支援態勢を整える必要がある。市には開港以来、外国文化を受け入れてきた伝統があり、中国語をはじめ外国語を話すボランティアが積極的に活動しているが、それでも入国者の多さに対応は全く追いついていない。態勢ができていないのに、規制緩和で来日者数ばかり増えるのはおかしい。この現実横浜市だけではなく、日本社会全体の問題でもある。

こうした問題を学校だけに任せておくのではなく、地域社会全体で引き受けていくため

に、学校と地域の新たな協働体制の構築が必要であり、本事業はこうした体制を作り出すために、現在時点において横浜市で行われている外国人子弟への支援活動を整理し、どのような支援が効果的なのか、何が問題で何が足りないのかを実証的に調査・研究を進める。

## 5. 実証研究の目的、実施内容及び実施方法等

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

まずは事務局が中心となり、外国につながる子どもたちの現状把握を行なうために、横浜市教育委員会のホームページからデータの収集を行い、担当者から意見を伺った。また、その支援策が実際にどのように働いているのかを調査するために、横浜市立日枝小学校・横浜市立南吉田小学校の校長及び国際教室担当者に、現場の立場としてヒアリング調査を行なった。

続いて、具体的な外国人子弟の学びを創出するための実行委員会を設置し、実証的に調査・研究を進める方法を話し合った。その方法については、学校が主体となっている「国際教室」の運営や従来のボランティアが主体となっている「日本語教室」の設置などではなく、それではカバーしきれていない「体験活動」を通じた外国人子弟と日本の子どもたちとの関係性との構築において、社会のソーシャルキャピタルの創出に重点を置いた活動を作り出すことである。

具体的には以下の地域イベントへの参加を促した。また、対象の子どもたち及びその家族への呼びかけ方法として、多言語に翻訳したチラシを近隣の関係機関に配布したり、国際教室担当教諭・ボランティア等、直接の知り合いを介した呼びかけ等を行なった。

そして、各イベントに主体的に関わることで「自分」を地域社会に見せていくことを通して、社会との適応を図る効果を検証した。検証方法としては、アンケートやインタビューのヒアリング調査で、以下のイベント①～③についてはアンケート調査、④～⑤についてはインタビュー調査を行なった。なお、イベント毎に英語・中国語・タガログ語・韓国語（①のイベントでは配置せず）の通訳スタッフを配置し、言語と価値観の壁を考慮した調査を行えるようにした。調査・研究の対象としては0歳から18歳までの外国につながる子ども及びその保護者を対象として、学校と地域の新たな協働体制の構築のためにはどのような支援が効果的なのかを検証した。

### 【イベント内容】

#### ① 蒔田公園で遊ぼう！One Day キッズパーク

##### あ. 概要

■開催日時：2013年9月28日(土) 13:00～16:00

■開催場所：横浜市南区 蒔田公園

■来場者数：約1,000人

■内容：「蒔田公園で遊ぼう！One Day キッズパーク」は、神奈川県青少年問題協議会が検証している「地域活動の中で親子のつながりを深めるポイント」を研究するモデル事業を基本として実施したイベントである。横浜市南区にある蒔田公園の周辺の放課後事業（放課後キッズクラブ・はまっ子ふれあいスクール・放課後児童クラブ）職員や町内会、公園愛護会で実行委員会を立ち上げ、それぞれが持つ地域ネットワークを持ち寄り、地域の親子がスポーツや工作、ゲームなどを体験できるブースを出展した。また、このイベントでは

子ども達が客として参加をするだけでなく、子どもワークショップを開催して出てきた子どものアイデアを取り入れる、子どもがヨーヨー釣りなどの店を出店する、当日は子どもがイベント会場で仕事を体験し、その報酬としてエコマネーを稼ぐことができる「だがしや楽校」のシステムを導入するなど、子どもがイベントに主体的に関わることができるよう工夫をした。

#### い. 広報

- 蒔田公園近隣の日枝小学校・南太田小学校・蒔田小学校でイベントチラシ配布  
日本語 約 1,500 部を配布 ⇒ 参加者数名
- 日枝小学校国際教室の児童へ担当教諭から直接の呼びかけ ⇒ 参加者 4 名
- 日枝小学校放課後キッズクラブにおいて、対象児童に直接の呼びかけ  
⇒ 参加者 5 名
- 多文化共生ラウンジの生徒達（中学生～18 歳）にイベントチラシ配布  
日本語版 約 50 部を配布

#### う. アンケート概要

- 集計数：子ども 10 (すべて小学生) 大人 10
- 関係国籍：フィリピン, 中国, アメリカ, ボリビア
- 通訳言語：英語, 中国語, タガログ語
- ヒアリング内容：子どものみ
  - 今回参加した感想
  - 今まで参加した地域イベント
  - これからどういうイベントがあったらよいか
- 大人のみ
  - 今まで参加したイベント
  - 子どもを参加させた感想
  - これからどういうイベントがあったらよいか

### ② だがしや楽校（よこはま国際フェスタ 2013）

#### あ. 概要

- 開催日時：2013 年 10 月 19, 20 日 (土, 日) 10 : 30 ~ 16 : 00  
\*ただし、20 日は 11 : 10 に荒天により中止
- 開催場所：横浜市中区 象の鼻パーク
- 来場者数：約 15,000 人
- 企画内容：子どもボランティア登録所/エコマネー引換所/駄菓子屋/実験ブース/  
工作 (YAP) /手芸ワークショップ (川上小学校放課後キッズクラブ) /  
ふくしまキッズ活動報告 (CVIK ブース) / 子どもワークショップ/  
ふくしまキッズ応援活動 (M-dream)
- 子どもボランティア参加人数：158 名 (延べ人数、19 日：152 名、20 日：6 名)
- 大人ボランティア参加人数：78 名 (19 日 61 名、20 日 17 名)

■内容：横浜だがしや楽校は、子どもたちがボランティア活動やお仕事体験などを通して社会参加意識を作り出すことを目的とし、また本イベントに参加する企業や学校、ボランティア団体と交流をすることを目的として実施されている。今年度は、さらに次の3つのテーマを目標に掲げて実施した。

1. 横浜の子どもたちと大人のコミュニケーションの場をつくり出す。
2. 行政・企業・市民活動団体が連携し、横浜の未来を背負う子どもたちを育成する。
3. 参加団体の交流を通して、市民参加型の横浜の街づくりをすすめる。

1日目は通常通りの実施であったが、2日目は荒天のため、開始40分で全体として中止を決定した。しかしその中でも、多くの一般来場者、子ども・大人ボランティアの参加があり、本イベントが地域市民及びボランティアの活躍の場、そしてコミュニケーションの場であると認識できた。

#### い. 広報

■①のイベント参加者でヒアリングを実施した方に、多言語翻訳チラシ配布  
翻訳言語：英語・中国語・タガログ語

■横浜市指定国際教室へチラシ配布  
日本語 約1,000部

■多文化共生ラウンジの生徒達（中学生～18歳まで）に多言語翻訳チラシ配布  
翻訳言語：英語5部、中国語15部、タガログ語5部、韓国語2部

#### う. アンケート概要

■集計数：子ども3 大人11

■関係国籍：中国、オーストラリア、ソロモン諸島、韓国、イラン、アルゼンチン、アフガニスタン、アメリカ

■通訳言語：英語、中国語、韓国語、タガログ語

■ヒアリング内容：子ども, 大人共通

関係国籍, 学年, イベントを知ったきっかけ, 今回参加した感想  
今まで参加した地域イベントとその感想(ない場合、なぜなのか)  
これからどういうイベントがあったらよいか  
放課後の時間何をしているか

大人のみ

本イベントにどのように参加しているか  
これから子どもを参加させたいイベントとその理由  
地域イベントについての要望や意見

### ③ よこはまばしインターナショナルフェスタ

#### あ. 概要

- 開催日時：2013年10月27日(日) 10:00～17:00
- 開催場所：横浜市南区 横浜橋通商店街隣接 大通公園
- 来場者数：約1,000人
- 企画内容：ステージプログラム(ダンスなど)/多国籍料理の出店/外国人向け生活相談ブース/商店街についてのアンケートブース/お仕事体験ブース  
子供遊びブース(教育支援協会)
- 内容：横浜橋通商店街を中心とした地域一帯には外国籍の住民が多く、国際色豊かな雰囲気がある一方で、言語や生活習慣の違いにより生活上の問題を抱えている人々がいる。そこで日本人と外国人が互いを理解し対等な関係を築くきっかけづくりの一端として、今回のイベントが開催された。

#### い. 広報

※初期の計画に盛り込んでいなかったイベントにより、広報活動は行わなかった。

#### う. アンケート概要

- 集計数：子ども5 大人5
- 関係国籍：中国, インドネシア, モロッコ, バングラデシュ
- 通訳言語：なし
- ヒアリング内容：子ども, 大人共通  
関係国籍, 学年, イベントを知ったきっかけ, 今回参加した感想  
今まで参加した地域イベントとその感想(ない場合、なぜなのか)  
これからどういうイベントがあったらよいか  
放課後の時間何をしているか  
大人のみ  
本イベントにどのように参加しているか  
これから子どもを参加させたいイベントとその理由  
地域イベントについての要望や意見

### ④ 大岡川 光のぶろむなあと

#### あ. 概要

- 開催日時：2013年12月14, 15日(土, 日) 16:00～20:00
- 開催場所：横浜市南区 蒔田公園
- 来場者数：約8,000人
- 企画内容：蒔田公園でキャンドルナイトや作品の展示/ステージ発表/屋台の出店
- 内容：日枝小学校放課後キッズクラブでは地域の様々なイベントに以前から参加していた。今回は大岡川アートプロジェクト実行委員会メンバーとして早い段階から企画に参加し、子どもたちが地域のイベントに関わり体験ができるプログラムづくり(キャンドルホルダー制作体験、地域の方々とキャンドル作品をつくる体験、工作屋台での工作体験)を提案し、地域の方々と一緒に行った。また、周辺の放課後事業3拠点合同(日枝小学校キッズクラブ、南太

田小学校キッズクラブ、みなみ第2ひまわり学童クラブ)による歌の発表でオープニングステージに出演。また前の体験プログラムにも合同で参加。3拠点で約80名の児童が参加(外国につながる児童は約5名)。

#### い. 広報

- ②のイベント参加者でヒアリングを実施した方に、多言語翻訳チラシ配布

翻訳言語：英語・中国語・韓国語・タガログ語

- 多文化共生ラウンジの生徒達(中学生～18歳まで)に多言語翻訳チラシ配布

翻訳言語：英語5部, 中国語30部, タガログ語5部, 韓国語2部

タイ語3部

- 日枝小学校国際教室の児童に、多言語翻訳チラシの設置

翻訳言語：英語30部, 中国語30部, 韓国語10部, タガログ語20部

タイ語10部, ロシア語10部

※うち中国語2部は母語支援ボランティアを介した直接の呼びかけ

⇒ 参加者2名

- 南吉田小学校対象児童に、担任の先生が必要部数の多言語翻訳チラシ配布

翻訳言語：英語50部, 中国語130部, 韓国語30部, タガログ語50部

タイ語15部, ロシア語3部

- 横浜中央児童相談所に多言語翻訳チラシ設置

翻訳言語：英語10部, 中国語10部, 韓国語5部, タガログ語10部

タイ語5部, ロシア語5部

- 日本語教室「日本語スマイル」の生徒に多言語翻訳チラシ配布

翻訳言語：英語5部, 中国語15部, 韓国語5部, タガログ語15部

タイ語5部, ロシア語5部

#### う. インタビュー概要 ※12月14日(土)のみの実施

- 集計数：子ども8 大人3(通訳スタッフから)

- 関係国籍：中国, フィリピン, タイ

- 通訳言語：英語, 中国語, 韓国語, タガログ語

- ヒアリング内容：こども, 大人共通

日本語レベル, 性別, 学年, 誰と来たのか

イベントを知ったきっかけ, 今回参加した感想

今まで参加した地域イベント

これからどういうイベントがあったらよいか

放課後の時間何をしているか

大人のみ

関係国籍

これから子どもを参加させたい放課後活動とその理由

これから親としてどう放課後活動に関わっていきたいか

## ⑤ こども新年会 2014

### あ. 概要

- 開催日時：2014年1月12日(日) 10:30~15:00
- 開催場所：フリースペースみなみ(教育支援協会横浜事務局)
- 参加者数：こども約50名(外国につながる子は約15名) 大人約20名
- ボランティア参加者：子ども約10名  
大人：約15名(児童保護者、地域・大学生ボランティア)
- 企画内容：もちつき体験、お雑煮提供、お正月遊び体験(コマ、かるた、双六、福笑い、坊主めくり、みかん汁炙り出し、べっこう飴づくり)
- 内容：日本の正月の食事や遊びといった日本文化を子どもたちが体験できる、また地域の方々にも呼びかけ、共に地域や地域の子どもについて考える機会とした。

### い. 広報

- 近隣の日枝小学校・南吉田小学校・中村小学校・南太田小学校放課後キッズクラブ・蒔田小学校はまっ子ふれあいスクールに、ルビ付き日本語チラシ配布  
総配布部数 約2,000部
- ①のイベント参加者でヒアリングを実施した方に、多言語翻訳チラシ配布  
翻訳言語：英語・中国語・タガログ語

※以下、④のイベントと共に、同一のチラシで広報を行なった。

- 多文化共生ラウンジの生徒達(中学生~18歳まで)に多言語翻訳チラシ配布  
翻訳言語：英語5部, 中国語30部, タガログ語5部, 韓国語2部,  
タイ語3部
- 日枝小学校国際教室の児童に、多言語翻訳チラシの設置  
翻訳言語：英語30部, 中国語30部, 韓国語10部, タガログ語20部  
タイ語10部, ロシア語10部
- 南吉田小学校対象児童に、担任の先生が必要部数の多言語翻訳チラシ配布  
翻訳言語：英語50部, 中国語130部, 韓国語30部, タガログ語50部  
タイ語15部, ロシア語3部  
⇒ 参加者7名
- 横浜市中央児童相談所に多言語翻訳チラシ設置  
翻訳言語：英語10部, 中国語10部, 韓国語5部, タガログ語10部  
タイ語5部, ロシア語5部
- 日本語教室「日本語スマイル」の生徒に多言語翻訳チラシ配布  
翻訳言語：英語5部, 中国語15部, 韓国語5部, タガログ語15部  
タイ語5部, ロシア語5部  
⇒ 参加者5名

## う. インタビュー概要

- 集計数：子ども 10 大人 2
- 関係国籍：中国, フィリピン, タイ, インドネシア
- 言語：英語, 中国語, 韓国語, タガログ語
- ヒアリング内容：④のイベントと同一

## 6. 実証研究で得られた成果

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

### 1. 外国につながる子どもたちの現状について

本事業を進めていくにあたって、まず横浜市の外国につながる子どもたちへの支援策についての調査と、横浜市立日枝小学校・南吉田小学校国際教室及び母語支援体制について、ヒアリング調査を行なった。

#### (1) 横浜市の外国人子弟への支援活動について

具体的に、以下 9 つの支援活動を行なっている。

※横浜市教育委員会指導企画課 資料(平成 25 年 5 月 13 日)参照

#### ①横浜市における外国籍及び外国につながる児童・生徒数（小中学校）

年々児童・生徒数は増加しており、平成 23 年からは 6,000 人を越えている。指導主事の話によると、東日本大震災以降少し減少したが、また戻っているとのこと。その中で、日本語指導が必要な児童・生徒は毎年 1,000 人を越えている。

#### ②国際教室担当教員配置校

国際教室を設置し、日本語指導、教科指導、生活適応指導等を行なっている校数は、小学校で 40 校以上、中学校で 20 校近くと、毎年 60 校以上となっている。

#### ③日本語指導が必要な児童・生徒に対する支援事業

今年度より、日本語指導が必要な児童・生徒が一定数以上在籍する学校に、在籍数に応じて児童生徒支援非常勤講師、さらに多数在籍する場合は外国語補助指導員を配置している。

#### ④横浜市日本語教室

日本語の初期指導が必要な帰国及び外国人児童生徒に対して、日本語指導資格をもった講師が指導を行い、以下の 2 種類がある。入級者数は年度によって多少ばらつきはあるものの、300 人を越える年度が多い。

##### I. 集中教室

週 2 回(年間 20~60 回), 4 教室

##### II. 派遣指導(日本語教師を学校へ派遣)

週 1 回(年間 20~40 回)派遣指導がある。



⑤母語を用いたボランティア支援(平成 25 年度は 24 校)

I. 初期適応支援(生活適応)

入学まもない日本語が理解できない児童生徒への母語のできるサポーターによる、学校生活適応支援、1回2時間、国際教室設置校は10回、それ以外は15回まで。

II. 学習支援

児童生徒の母語ができる学習支援サポーターによる学習支援を行なう。国際教室設置校のうち、教育委員会が委嘱した推進校対象。

⑥学校通訳ボランティア(保護者対応)

市立小中学校における転入学の説明、個人面談、入学説明会、家庭訪問等における通訳を行なう。ボランティア派遣は、公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)に業務委託。派遣回数数は年々増加し、平成24年度は700回近くとなっている。

⑦各種ガイドブック等発行(配布・ホームページ)

I. ようこそ横浜の学校へ(平成24年から)

日本語指導が必要な児童生徒受け入れの手引き、学校通知文・用語対訳集・保護者の方へ～横浜の学校生活～(英語、中国語、スペイン語、タガログ語対応)

II. 横浜市帰国児童生徒教育ガイド

⑧日本語指導者養成講座

日本語指導の仕方、日本語指導が必要な児童生徒の受入れと指導について。  
全校対象(全9回、募集人員50名)

⑨教育委員会事務局 外国語指導主事助手

学校管理職から電話で要請する。

対応言語:ポルトガル語、中国語、英語、スペイン語の計5人

(2) 国際教室担当からのヒアリング調査

横浜市立日枝小学校・南吉田小学校国際教室担当教諭から、現場における国際教室の状況及び児童や保護者と関わる中でみえる、外国人につながる子どもたち及び保護者の現状について、ヒアリング調査を実施した。以下、詳細である。

【日枝小学校国際教室担当教諭へのヒアリング調査】

①実施日:2013年9月18日(水)

②ヒアリング内容まとめ

- ・文化や価値観の違いによるのか、お便りなどの返事に偏りがある。
- ・塾はお金がかかるので、あまり通わせていない。
- ・日本に来た時期、親の職業によって生活言語の習得度合いが異なる。例えば、親が接客業などの仕事をしている場合、子どもの言語上達も早い。
- ・言葉の壁も影響し、教員と保護者のコミュニケーション(電話やお便りなど)が円滑にいかないケースがある。
- ・生活言語については子どもが自然に学び、全体的に上達が早い。

- ・生活言語の方が学習言語の上達より早い。
- ・高学年になるほど学習言語の壁が出る（特に国語）。
- ・来日して間もない児童への、家庭への初期指導のサポートがあればいい。
- ・本校において、外国人子弟であろうとなかろうと必要な子には必要な支援をしている。
- ・日本人子弟は外国人子弟がクラスに転入してくることに慣れている。
- ・外国人子弟の問題に対して、国際クラスや教員の数が増えれば解決するという問題ではないと考えている。
- ・昔から外国人子弟の受け入れの多い地域として築いてきたものがあり、町内会などのバックアップもしっかりしている。
- ・学校での困った感は、児童自身の問題というよりも生活面の問題が関係していることもあるので、欠席理由をなるべく棲み分けするようにしている。

#### 【南吉田小学校国際教室担当教諭へのヒアリング調査】

①実施日：2013年12月11日(水)

②ヒアリング内容まとめ

- ・翻訳されたご案内について、年度の始まりに翻訳されたみなみラウンジの案内が送られてきた程度で、後は自由選択の方式をとっているの、ほとんど利用価値はないのではないか。
- ・外国人子弟は、共働きや親が良く知らないところという理由で地域イベントにあまり参加してないのではないか。
- ・地域柄多くの転校生がいるので、人数調整のためにも、まだ読み書きが不十分な状態でも国際クラスを卒業し通常級に入るが、結局授業についていけず担任任せとなっているケースがある。人員の足りなさも感じている。
- ・言葉の壁による語彙力の差が、思考力の差につながっているのではないか。
- ・東日本大震災後に来た児童は、努力する傾向にある。
- ・転入児童の半分以上は地域の塾や日本語のサークルに参加するが、残り半分の児童は、経済力の影響もあり家でパソコンなどの遊びをしていることが多いのではないか。
- ・安価で勉強の面倒を見てくれる場所などの問い合わせが頻繁にある。

#### (3) 放課後活動や地域イベントとの関わり

各地域イベントに参加した外国人につながる子どもたち及び保護者等に、アンケート・インタビューのヒアリング調査を実施して、放課後活動や地域イベントとの関わりについて調査した。 ※アンケート・インタビュー集計数：子ども 30 大人 24

【本イベント以外で参加した地域イベント】

- ・地元のまつり ⇒ 子ども 11/30 回答, 大人 7/24 回答
- ・国際系イベント ⇒ 子ども 1/30 回答 大人 10/24 回答

【放課後活動について】

- ・放課後の時間は、習い事をしたり、保育園に行ったりしている。
- ・放課後の時間は習い事や、家で遊ぶことが多い。
- ・放課後はキッズクラブに行ったり、公園で友達と遊んだりしている。
- ・家で勉強をしていることが多い。

## 2. 地域イベント参加効果の検証

各地域イベントに参加した外国につながる子ども及び保護者にアンケートやインタビューのヒアリング調査を実施し、参加効果を検証した。また、地域イベントについてどのように考えているのかを調査した。

### 【イベントに参加しての感想など】

- ・ハローワークがとても楽しかった。自分でかせぐと楽しいし、そのかせいだ分でおかしやジュースもおいしく感じる。仕事は大変だけど意外と楽しい。
- ・地元のお祭りなどには参加したことはあるけど、職業体験ができるのは初めて。楽しそうに職業体験できたので良かったと思います。規模は小さいけれど思いやりがあって新鮮。子どもがイキイキしていて、今後同じようなイベントがあるなら、ぜひ参加させたい。中国では普段の仕事などが忙しいので、その分お祭りになるとスケールが大きくにぎやかですが、こういうお仕事体験などはありません。
- ・日本人子弟または外国人子弟に関わらず、自分が活動に主体的に関われることへの効果が高い。
- ・自分が活躍できるこのようなイベントへの参加は意欲的である。
- ・自分から関わるプログラムが良い、内容が充実していた。
- ・初めて体験した日本文化（もちつきや百人一首など）があり、それがとても楽しかった。
- ・日本文化や正月遊びを体験することが大切だと、参加した保護者からの意見があった。
- ・今回参加して、教育支援協会の自然体験活動や多文化共生라운ジの学習教室や日本語教室の情報を知れたことが良かった。

### 【今後どのような地域イベントがあったらよいか】

- ・自分で体験できるようなイベント、職業体験できるようなイベント、仲間と一緒に参加できるイベントが良いとの意見があった。
- ・いっぱい遊べたり、体を動かしたりできるイベントを望んでいる。
- ・ダンスやスポーツ系のイベントに子供を参加させたいという意見があった。
- ・来年もフェスタに継続的に参加したいという意見がある。
- ・気軽に子供遊びのあるイベントを望んでいる。
- ・子どもに色々な体験をしてほしい。イベントにはどんどん連れて行きたい。
- ・日本人が良いと思うイベントなら、外国人も良いと感じると思う。
- ・今後も同じようなイベントに参加したい。おもちゃ交換が楽しかった、景品や記念品をもらえるイベントがいい。
- ・学校以外の時間で、みんなで集まる場がほしい。
- ・日本文化を子どもに教えられる内容のイベントをやってほしい。
- ・家以外の場所で子どもが楽しんで喜ぶイベントをやってほしい。

### 【考察】

- ① 子どもが好きな体を動かしたりするようなイベントや、内容がわかりやすいイベント、外国につながる保護者では対応しきれない文化イベントなど望んでいる声がある。それらのニーズに合わせたイベントの情報を今後提供していく必要性が考えられる。

- ② 日本人子弟または外国人子弟に関わらず、仕事や役割を任せてもらえる、自分で試行錯誤をすることができる場では、子どもたちが意欲的に参加している様子が見られた。また仕事を通して周囲の人に声をかけたり、自分から質問をしたりする様子や、子どもの様子を見て地域の人が声をかけるなど、色々な人と関わる場面が見られ、地域での体験活動が子どもにとって有意義なものであるということが確認できた。

### 3. ヒアリング調査方法及び内容についての課題

本事業では、外国につながる子どもたちの放課後の様子や、地域への関わり方を調査する目的で、各イベント毎に子どもと大人それぞれに対してアンケートとインタビューを実施してきたが、なかなか生きた声を拾い上げるものにならなかった。以下が具体的な課題と考える。

#### 【課題】

- ① アンケート用紙を渡しても理解できなかつたり、記入が難しかつたりするため、通訳スタッフが説明しながら聞き取る方法をとらざるを得ず、一人に時間がかかってしまった。自由記入形式も難しいのではないかな。
- ② 調べたいこととアンケートの質問項目をうまく対応させることができなかつた。例えば「今回のイベントの感想は？」という質問では、「よかった」という回答が戻ってくることが多い。本来は「どうよかったか？」という声を拾いたかつたのだが、言葉の壁もあり説明が難しいようであつたり、聞き取るのが難しかつた。
- ③ 調査には通訳スタッフにも入ってもらつたが、イベントに来ている親子にアンケートを実施するのは難しかつたようで、アンケートの内容をうまく伝えられなかつたり、通訳の主観が入つた回答になってしまうことがあつた。

#### 【改善案】

- ① 本当の声を聞くには、文字言語より音声言語が有効といえる。外国につながる方の声を一番聞き取れたのは立ち話やちょっとした井戸端会議のような時だつた。外国につながる方々の現状やニーズを調査する方法として、アンケート調査中心でなく、おしゃべり会などやインタビューなどの方法を多くしていきたい。実際に光のぶろむなあとと子ども新年会ではアンケートを渡して記入してもらつた方法から、通訳スタッフがインタビューして書き込む方法に変更したところ、通訳スタッフも子どもにかかせるという手間が省け、子どもたちがよりイベント内容に集中できるようになつた。
- ② アンケートやインタビューを実施する際には、イベントごとに内容を変えるのではなく、同じ項目を使用し、回答者の母数を集められる内容に精査する。また、回答の客観性を維持できるように質問内容の精査が必要であつた。

#### 4. 広報や周知に関する課題

本事業を進めるにあたって、広報や周知に対する課題に直面した。イベントごとにヒアリング調査を実施しても、聞き取りたい全ての人にヒアリングできたわけではなく、国際教室担当教諭やボランティアの意見等から考えてみても、まだ眠っている声がいくつもあると認識しており、今までのヒアリング調査の内容だけで結論付けてしまうことは出来ない。実際に調査できた母数も含め今後の課題である。

そこで、どのようにしてイベントに参加したのかという質問をアンケートとインタビュー項目に設け、調査を実施した。以下、その内容をまとめたものである。

##### 【参加したきっかけ】

- ・参加のきっかけは友人・知人からの紹介、所属しているコミュニティや協会からの案内が多かった。
- ・国際系コミュニティや所属している協会からの案内は参加に対するハードルが低く、興味を持ちやすいという意見があった。
- ・参加のきっかけは、家の人に聞くことが最も多い。
- ・参加のきっかけは、近所に住んでいることや仕事で来ている方が多い。
- ・他地域のラウンジからの紹介でこのイベントを知った方がいる。
- ・国際系コミュニティからの紹介でイベントに参加している。

##### 【広報に関しての意見】

- ・学校からの案内以外に知るチャンスがないなど、イベントの案内を知るチャンスがあまりないという意見があった。
- ・コミュニティなどに属していないと、このようなイベントを知る機会が少なく、もっと対応してほしいと考えている方がいる。各地域の外国につながる家庭への広報方法について差がある。
- ・イベントの案内がよくわからないので、もっと宣伝してほしい。
- ・今までこういうイベントに全然参加したことがなかった、もっとイベント情報を知りたい。役所以外で情報がもらえるところを知りたい。
- ・仕事が忙しく、学校からの案内はほとんど目を通していない。
- ・イベントの情報など知りたいが、その機会や入手の方法がわからない。

##### 【考察】

- ① 本事業で呼びかけて集まった親子から、地域のイベントにはじめて参加したという声を度々聞いた。同時に色々なイベントに参加したい、体験をさせたいという声も多くあった。このことから、イベントや体験活動に興味があるが、情報が届かない等の理由で機会を得ていないことが伺える。
- ② イベントへの参加のきっかけを聞いていくと、友人や所属しているコミュニティからの紹介等、口コミで情報を得ていることが伺える。また、イベント当日に近所で何かをやっていると見に来たり、たまたま通りがかって参加したという参加者もおり、事前にチラシを受け取るだけでは参加につながっていないことがわかる。

- ③ 当初ルビ付きの日本語チラシや、多言語に翻訳したチラシを配布することで子どもの参加につながると考えていたので、地域の学校や放課後事業拠点などに協力いただき広くチラシ配布をしたが、思うように子どもの参加にはつながらなかった。聞き取りを進める中で、子どもを安心して行かせることのできる場なのか、子どもが楽しめるのか等、保護者の安心感と参加の有無が繋がっていることに気づかされた。子どもへの広報活動以上に、保護者に対する広報・周知活動を検討する必要がある。
- ④ 国際クラス担当の先生からの話によると、保護者の仕事の状況、価値観の違い、経済力の差などが影響し、イベントを知る機会や参加する機会に差があることがわかってきた。

#### 【改善案】

- ① 広報先の再検討を考えると、現在は学校の国際教室で通訳から児童にアピールすることが主な広報手段となっているが、同時に、親へ直接渡すような広報手段を検討する。例えば、市民活動センターや子育て支援拠点、地域で活動している日本語教室などの協力を得てもっと広く広報する。
- ② 保護者の信頼や安心感がネックになっていることを考えると、開催場所や開催団体の工夫が必要である。例えば、フリースペースみなみでやることを学校敷地内や市民活動センターなどにする。
- ③ 放課後事業拠点が担うことができる役割について、地域の拠点と検討することが必要である。特に、南吉田小はまっ子、中村小はまっ子は本事業の鍵となる。体験イベントを実施する際、はまっ子やキッズクラブでプログラムとして参加する方法が考えられる。
- ④ 親子に向けてその都度広報を発信することだけでなく、親が必要である時に情報を取りに行ける情報バンクなどを構築する。

#### 5. 言語・価値観についての課題

当初、地域のイベントや情報が言語の壁で届いていないと考え、日本語・英語・中国語・タガログ語・タイ語・ロシア語等の多言語翻訳チラシを作成した。しかし、多言語チラシを広く配布したとしても、実際の参加につながったという効果は薄かった。同時に文化の違いによる価値観についても考える機会となり、それにより参加意欲に差があることが考えられる。以下、具体的な課題である。

#### 【課題】

- ① 多言語チラシで採用する言語は学校などのアドバイスをもらい選択をしたが、地域に住む外国につながる方の全ての言語をカバーすることはできず、逆に、翻訳しなかった言語の方々に疎外感を与えるのではないかという懸念がある。
- ② 子どもが体験活動に興味を持ち、継続的に参加する呼びかけ方法として、外国人子弟対象に、イベントに参加するとエコマネーをもらえるポイントカードを作成した。しかし、国籍に関係なく一緒になって体験をすることを目指すイベントの場で、外国人子弟を対象とした特典が、逆に日本人であるかないかを分けるのではないかという議論になり、渡し方の解決ができず配布を停止した。

- ③ 外国人子弟でも日本で生まれ育っている場合、自分を外国につながる児童だと認識していないということがあった。保護者の方針やアイデンティティに関わる問題など、慎重に取り扱うべき事柄が含まれていることに気付いたと同時に、「外国につながる人」と一括して考えることはできないことにも気付かされた。

## 6. 地域との関わり

地域イベントに参加・企画する中で、地域住民との協働体制は必要不可欠である。本事業を進めていくにあたって、外国につながる子ども及び保護者を地域全体の課題として捉え、またきっかけとして、新たな地域住民の連携があった。ヒアリング調査においても、外国につながる大人も一市民として、自分がどのように地域イベントに関わっていきたいかの項目を設け調査を実施した。以下、その内容をまとめたものである。

### 【地域イベントにどう関わりたいかという質問に対して】

- ・自分達で何か主体的なイベントを立ちあげたいとなった時に、それができる協働体制があるのか。
- ・自分が主体的に関われるイベント（国際系など）にもっと参加して、多文化共生に貢献したいという意見があった。
- ・保護者につながりを広げるためにも、イベントの手伝いなどしたい。
- ・仕事があるので、イベントにお手伝いとして関わることは厳しいが、出来るならば手伝いたい。

### 【課題及び改善点】

外国人子弟の学び支援事業について取り組む中で、何を「支援」するのかという疑問に何度となくぶつかった。ある通訳の方からは、地域やPTAに関わろうと思っているが、「外国の方だからきっと分からない」という日本人たちの空気を感じて、関わることを躊躇しているという声があった。ともすれば「言葉の壁を何とかしてあげよう、体験の場を作ってあげよう」となってしまうがちだが、本事業で出会った外国の方からは、自分たちも住んでいる地域で何かやりたい、手伝いたいという声が聞かれた。住んでいる地域に根ざそう、地域に関わろうとする力を「してあげよう」で抑えてしまうのではなく、その主体性を発現できるためのサポートを考えていきたい。

### 【地域への働きかけについて】

- ① 体験イベントの企画をする際、職員だけでなく地域の方々にも声をかけ、関わっていただくようにした。イベントを通して実際に外国につながる子どもたちと出会い、関わり場面があっただけでなく、多文化共生や子どもの体験活動について今後につながるような話し合いをすることができた。
- ② イベントの事後、参加していた子どもたちの声や様子を、関わってくださった地域の方々に届けるようにした。この事後の報告をすることで、地域の方から別のイベントを紹介していただいたり、新たなイベントの提案があった。

## 7. 事業完了にあたって

日本社会の中での外国につながる子どもたちの増加という問題に対して、本事業を始める際、学校だけに任せておくのではなく地域社会全体で引き受けていくよう、子どもだけでなく家族も日本の社会に適應するよう社会支援体制を整える必要があり、その為に学校と地域の新たな協働体制の構築が必要であると考え、そのことを目的として事業を進めてきた。

そうした体制を創り出す為に、横浜市で行われている外国につながる子どもたちへの支援を整理し、どのような支援に効果があり、何が不足し、何が問題となっているのかを関係機関へのヒアリング調査を通して研究をしたり、地域で開催されているイベントを活用し、その活動に子どもたちが主体的に関わることで得られた効果について検証してきたが、その中でいくつかの課題が浮かび上がった。

そういった中、何ををもって「外国につながる」と定義するのかという指摘が評価委員会より挙げられた。一概に「外国につながる」といっても、ほとんど日本語ができない日本国籍を持つ子ども、日本語に不自由しないが外国籍の子ども等、子どもの状況は様々であり、誰を対象として何を支援するのかによりアプローチ方法が全く異なるということが指摘された。本事業を進める中、この「外国につながる」という定義が曖昧にしまい、はっきりとした対象が絞れていないという大きな課題がある。この点については来年度に向けて、しっかりと議論する必要がある。

隣人として当たり前のように、同じ市民として色々な国に縁がある子どもたちや大人が住んでいる本地域では、PTA や町内会の中においても価値観や倫理観の違い等が問題となることが多い。そして、理解し合えない相手であるかのように、どうか関わればよいのか、どういうアプローチが有効なのかと悩んでいる声が聞かれる。

しかし、本事業を進めていく中で、事業に興味を持ち、協力をしたいという団体や地域住民が現れ始めている。地域イベントに参加した通訳スタッフも、本事業に対してもっと手伝えることはないのか、地域というものを考えるよい機会になったという声が出ている。他にも、多文化共生ラウンジや近隣の町内会など、本事業の必要性に賛同し具体的な協力を申し出ていただく動きが出てきたことは、そういった方々が翻訳を手伝ったり、身近な人へ情報を伝えたり、一緒に地域の問題に取り組もうとするなどといった場や機会を提供することで、本事業が地域の新たな協働体制構築につながるものに成り得ると考える。



## 受入れ団体アンケート調査まとめ

## 1. 実施目的

外国につながる子どもたちと関わりのある団体がどのように受入れを行ない、彼らがそれぞれの活動に参加することをどのように思うか、またどのような放課後活動を実施するのがするのが良いのか、多様な面から調査する。なお、外国につながる子どもたちの定義を以下とする。

※日本語が全く話せない、もしくは日本語ニュアンス理解が不十分もしくは今後も取得が難しい子

## 2. ヒアリング概要 ※2種類のヒアリングシートの質問と回答の内容をまとめたもの。

## (1) 団体数：5団体

## (2) 各団体の活動内容および広報方法

- ・日本語教室、学習支援 ⇒ 関係機関チラシ設置、HP
- ・Ustreamを使った活動内容紹介、Youtubeを使ったムービーアカイブ
- ・地域NPOと連携して商店街企画の実施 ⇒ 関係機関でのチラシ配布、設置、ポスター掲示
- ・工作とアートで子ども支援
- ・多文化共生ラウンジでの学習支援、インターン、セミナー

## (3) 外国につながる子どもたちの 受入れはあるか。

ある：4団体 ※対象は小学生～青少年（30歳くらいまで）

ない：1団体 ⇒コンピューター関係というグローバル活動であり、言語のボーダーを気にすることはない、必要なら通訳アプリなどで対応する）

## (4) 対象の子どもを受け入れるにあたり、工夫していることや配慮していることはあるか。

- ・小学生には遊びの要素を入れて、楽しく学べるようにしている。
- ・簡単な日本語を使っている。日本語が話せる友人と一緒に参加してもらう。英語が話せる大学生スタッフを用意する。

(5) 外国につながる子どもたちが 活動に参加<sup>さんか</sup>することを どう思うか。

- ・交渉が必要かもしれない。
- ・子どもたちが商店街になじみを持つことや、その親が商店街につながる効果があると考えられるので、良いと思う。
- ・親と一緒に参加するイメージがある。
- ・子ども同士で空気の違いからチームに入れられないことがあるのではないか。
- ・団体の連携、学校のスタンスが重要ではないか。

## (6) どんな放課後や週末の活動が 外国につながる子どもたちにとって 良いと思うか。

- ・学んだり遊んだりする場所がもっとあって、閉じこもりがちな子どもをつくらないように望む。困っていることを話せる場所もあったら良いと思う。
- ・子どもが商店街を歩いたり、店の人と話をする機会のあるイベント。
- ・ものづくり、最後までできて達成感を味わうことが出来る。
- ・学習支援をきっかけとして、そこが居場所となり色々な世界を知れる。
- ・英語ができる子と英会話教室、大学生も英語を話したい。
- ・子ども店員（言葉や買い物の勉強）、けん玉などの言葉を使わない遊び、料理など。
- ・自分の国のことをどんどん出せるような機会があってもいいのでは。

# 欢迎参加地区活动周游团！！

## 之 1 . 银光走廊

☆ 一起做蜡烛杆 一起来装饰 !!! ☆

【日期】 2014/12/13 (周六) 14:00 ~16:00!

【地点】 蒔田公园内 日枝小学儿童俱乐部门前 13:50 集合

【对象】 小·中学生 以及家庭成员 【参加费】 免费



※此次灯彩活动将在13日(周六)·14日(周日)的16:00~20:00之间举行。

※需要预约: 12月11日(周四)截止

## 之2. 参观横浜橋商店街店铺人家的工作样子!

☆ 让我们自己来繁荣自己本地的商店街! ☆

【日程】 2015/1/31(周六), 2/14(周六), 2/21(周六), 2/28(周六) 具体时间未定

※全日程必须都参加。 详细内容近期再次通知。

【地点】 横浜橋商店街 (横浜市南区高根町1-4)

【对象】 小学生(3年生以上)、中学生、高中生 【参加费】 免费



## 之3. 中小小学生新年会2015

☆ 让我们一起来玩日本的正月游戏! 一起打年糕! ☆

【日期】 2015/1/10 (周六) 10:30 ~15:00

【地点】 フリースペースみなみ (南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設9楼)

【对象】 小·中学生 以及家庭成员 ※需要予約: 1月8日(周四)截止

【参加费】 1个人 300日元



欢迎各位家长能前来帮忙做义工!!

(义工内容: 煮米饭·游艺场员工等)



### <报名方法>

请直接来窗口或者使用传真(背面附有申请书)和邮件。

<报名处> フリースペースみなみ (南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設9楼)

FAX: 045-243-6841

E-mail: [minami@yccas.org](mailto:minami@yccas.org) (请填写姓名, 学校名, 年级, 住所, 电话, 邮箱)

# Join our community event tour!

## No1. Light-Promenade

### ☆Crafts & decorating!! Join the Art Event Tour!☆

【Date】2014/12/13 (Sat) 14:00-16:00

【Meeting-Place】Hie Elementary School Kids Club entrance in Maita Park (meet at 13:50)

【Age】Elementary & Jr. High School student and Family 【Fee】Free

※This event will be open 13th(Sat) & 14th(Sun) 16:00-20:00

※Registration required by 12/11(Thurs)



## No2. Come and meet the lively workers in the Yokohamabashi-doori Shopping Street!

### ☆Let's boost the local spirit of the shopping streets☆

【Date】2015/1/31 (Sat), 2/14 (Sat), 2/21(Sat), 2/28 (Sat) Time: unfixed

※All dates must be attended. More detail coming up soon.

【Place】Yokohamabashi-doori Shopping Street

(Yokohama-shi, Minami-ku, Takane-cho 1-4)

【Age】Elementary School 3rd grade~, Jr. High & Snr. High School student 【Fee】Free



## No3. New Year's Party for Kids 2015



### ☆Try the traditional Japanese games & Mochituki☆

【Date】2015/1/10 (Sat) 10:30-15:00

【Place】Free Space Minami (Minami-ku, Urafune-cho 3-46 Welfare Service Association 9F)

【Age】Elementary & Jr. High School students and Family ※Registration required by 1/8

【Fee】¥300 per person



**Volunteers (adults) welcome!!**  
(Cooking volunteer, game staff, etc...)



**<How to register>** Complete the application attached on the back...

Register at our Desk at Free Space Minami (Minami-ku, Urafune 3-46 Welfare Service Association 9F) ,  
or send us the application on facsimile (045-243-6841).

You can also send e-mail (minami@yccas.org) with your name, school name, grade, home  
address, contact number, e-mail.

# HALINA SUMALI TAYO sa "EVENT'S TOUR"

## UNA: LIGHT PROMENADE

☆Gumawa at mag-dekorasyon,Sali na tayo ! Art Event Tour☆

【Petsa】 2014/12/13 (Sabado) 14:00~16:00!

【Lugar】 Sa harap ng Maita Park Hie Elementary Kid's Club 13:50

【Libre】 Elementary · Junior High School at kasama din ang pamilya

※Gaganapin sa araw ng( Sabado) 13 · 14 ( Linggo ) 16:00 ~ 20:00.

※Reserbasyon hanggang Disyembre 11 ( Huwebes )



## PANGALAWA: YOKOHAMA BASHI DORI SHOTENGAI



☆Muling Pasiglahin ang Sarili Nating Pamilihan ☆



【Petsa】 2015/1/31 (Sabado) ,2/14 (Sabado), 2/28 (Sabado) Tignan ang oras

※ Kailangan salihan ang lahat ng petsa. Ipaparating ang kaukulang impormasyon kapag malapit na ang okasyon

【Lugar】 Yokohama Bashi Dori Shotengai (Yokohama Shi Minami Ku Takane Cho 1-4  
Ang pagsali ay libre

【Ang makakasali\_】 Elementary (grado 3 pataas) Junior High School, Senior High School



## PANGATLO: KIDS NEW YEARS PARTY 2015



☆Sumali sa Bagoong taon at palaro at Bayuhan ng malagkit na kanin☆

【Petsa】 2015 Enero10 (Sabado) 10:30 ~15:00

【Lugar】 Free Space Minami (Yokohama-shi, Minami-ku, Urafune Cho 3-46 Urafune  
Fukugo Fukushi Shisetsu 9F)

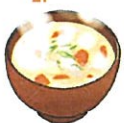
【Ang makakasali】 Elementary at Middle school o Buong Pamilya

May bayad 300 yen bawat isa

※Kailangan ng reserbasyon hanggang ENERO 8

※Kung gusto ninyong mag-boluntaryo ay ipaalam lamang sa amin !

(halimbawa:pagluluto, Game Staff..at iba pa)



### <Pamamaraan ng Pagrehistro >

Magtungo o i- FAX ang sinulatang rehistro sa likod ng papel na ito maaari din mag e-mail  
TOUR REGISTRATOIN : Free Space Minami  
(Minami Ku Urafune Cho 3-46 Urafune Fukugo Fukushi Shisetsu 9F)FAX : 045 - 243 - 6841  
E - mail :minami@yccas.org (Pangalan, Paaralan, Grado, Address, Telepono, Mail Address)

# 지역 이벤트 마을 탐험

## 이벤트 1. 촛불 프롬나드

☆초를 직접 만들어 보고 장식도 해보는 아트 이벤트☆

【집합일시】 2014년 12월 13일(토) 오후 2시-4시

【집합장소】 마이타 공원내 (蒔田公園内) 히에초등학교 키즈클럽 앞(白枝小キッズクラブ前)  
1시 50분 집합

【대상】초등·중등 학생과 보호자 【참가비용】무료

※이벤트는 12월 13일과 14일 (토, 일 양일간) 오후 4시부터 8시까지입니다.

※참가하실 분은 12월 11일(목)까지 예약해 주시기 바랍니다.



## 이벤트 2. 요코하마 바시도오리 상가 사람들의 일하는 모습 견학



☆우리 지역 상가를 우리가 키워 보자☆

【일시】2015년 1월 31일(토), 2월 14일(토), 2월 21일(토), 2월 28일(토) 시간 미정  
4일간 전일정 참가가 필수입니다. 자세한 사항은 후일 안내해 드립니다.

【장소】요코하마 바시도오리 상가(横浜市南区高根町1-4 요코하마시 미나미구 다카네초 1-4)

【대상】초등학생(3학년이상), 중등학생, 고등학생 【참가비용】무료



## 이벤트 3. 어린이 신년회 2015



☆일본 설날 놀이를 같이 해 보고 떡방아도 찧어 봐요☆

【일시】2015년 1월 10일(토) 오전 10:30 - 오후 3시

【장소】프리 스페이스 미나미(フリースペースみなみ) (南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設9F)

【대상】초등·중등학생 및 보호자

※예약은 1월 8일까지

【참가비】1인당 300엔

식사 준비와 게임 코너를 위한 보호자분들의 도움이 필요합니다. 도와주실 분들을 모집하고 있어요!!



### <이벤트 신청 방법>

프리 스페이스 미나미로 직접 오시거나 팩스로 신청서를 내주시기 바랍니다. 이 메일 신청도 가능합니다. (프리 스페이스 미나미(フリースペースみなみ) 南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設9F)

팩스: 045-243-6841

E-mail: [minami@yccas.org](mailto:minami@yccas.org) (성명, 학교명, 학년, 주소, 연락처, 메일 주소를 기입해 주세요.)

# Региональный праздник

## 1-й пункт: организация иллюминации

☆Все вместе, примем участие в украшении города! Творческий праздник☆

【Дата и время】 13 декабря 2014 (суббота), с 14:00 до 16:00. Сбор участников в 13:50!

【Место】 Парк Майта, перед детским клубом школы Хиэщё.

【Цель】 Проведение общего праздника для учеников младших и средних классов и их родителей.

【Взнос для участия】 БЕСПЛАТНО.

※Проведение праздника: 13-го (суббота), 14-го (воскресенье) с 16:00 до 20:00

※Принятие заявок на участие до 11 декабря 2014 г. (четверг).



## 2-й пункт: Ознакомительная экскурсия, организованная на территории городского рынка

☆☆Примем участие в буднях городского рынка Йокогама Бащи!!!☆☆

【Дата проведения】 31 января (суббота)/14 февраля (суббота)/ 21 февраля (суббота)/28 февраля 2015 (суббота): точное время и подробности мероприятия будут определены ближе к дате проведения.

※Приглашаем всех желающих принять участие в каждой из четырех запланированных дат для проведения данного мероприятия.

【Место】 городской рынок “Йокогама Бащи” (город Йокогама, район Минами Ку, улица Такане Мачи 1-4).

【Цель】 Проведение общего праздника для учеников младших (с 3-го по 6-й классы), средних и старших классов. Взнос для участия: бесплатно.



## 3-й пункт: детский Новый Год 2015



☆☆Устроим веселый Новогодний праздник! Приготовим Омочи☆☆

【Дата и время】 10 января 2015 10:30 ~ 15:00

【Место】 Фриспейс Минами (Район Минами Ку, улица Урафуне Чё 3-46, Организация Социального Обеспечения “Урафуне Фукугоу Фукуши Щисецу”, 9 этаж)

【Цель】 Проведение общего праздника для учеников младших и средних классов и их родителей.

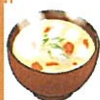
※Принятие заявок на участие до 8 января 2015 г. 【Взнос для участия】 с каждого участника по 300 йен.

Всем желающим, необходима помощь родителей (в приготовлении заготовок риса, в организации игр)

< Подача заявок на участие >

Подача заявок осуществляется по факсу или эл. почте, а также при подаче бланка заполненного заявления, прикрепленного к объявлению, на ресепшн.

<Приёмная> Организация социального обеспечения “Урафуне Фукугоу Фукуши Щисецу”: район Минами Ку, улица Урафуне Чё 3-46, Организация, 9 этаж, Фриспейс Минами).



จะมีงาน“จิตคือเบนโตะอะจิโคะจิตซ้อ!!  
ให้เด็กๆและพ่อแม่ได้เข้าร่วมกิจกรรมสนุกสนานของชุมชนด้วยกัน

## กิจกรรมที่1. ลานแสดงไฟ

☆ร่วมกันประดิษฐ์และประดับที่ใส่เทียน☆

【วันและเวลา】 วันเสาร์ที่13 ธันวาคม 2014 ตั้งแต่14 : 00–16:00น.

【สถานที่นัดกัน】 ในมายตะโคเอน ด้านหน้าคิตซุคุระบุของโรงเรียนประถมฮิเอะ นัดรวมกัน13 : 50น.

【ผู้ที่ร่วมกิจกรรมได้】 นักเรียนชั้นประถมและนักเรียนชั้นมัธยมต้นและครอบครัวของนักเรียน

※หมายเหตุ : กิจกรรมจะมีวันเสาร์ที่13และวันอาทิตย์ที่14 เวลาตั้งแต่16 : 00 ~ 20 : 00 น.

※กำหนดรับสมัครถึงวันพฤหัสบดีที่11 ธันวาคม **【ค่าเข้าร่วม】 ฟรี**



## กิจกรรมที่2. เข้าชมการทำงานของคนทำงาน ในร้านค้าต่างๆที่โยโกฮามะบะชิโดริโซเตนเกีย

☆มาช่วยกันสร้างความคึกคักมีชีวิตชีวาให้แก่ย่านร้านค้าของชุมชนด้วยความร่วมมือของพวกเรา☆

【วันเวลาจัดกิจกรรม】 วันเสาร์ที่31มกราคม วันเสาร์ที่14,21,28 กุมภาพันธ์

【ค่าเข้าร่วม】 ฟรี เวลายังไม่กำหนดแน่นอน

※จำเป็นต้องมาร่วมงานในวันที่มีกิจกรรมทุกวัน รายละเอียดจะแจ้งให้ทราบเพิ่มเติม  
เมื่อใกล้วันจัดกิจกรรม

【สถานที่】 โยโกฮามะบะชิโดริโซเตนเกีย ( โยโกฮาม่าชิมินะมิคุทะคะนะโจว1-4 )

【ผู้ที่ร่วมกิจกรรมได้】 นักเรียนชั้นประถม ( ตั้งแต่ป.3ขึ้นไป ) นักเรียนชั้นมัธยมต้นและมัธยมปลาย



## กิจกรรมที่3. งานเลี้ยงปีใหม่ 2015



☆ร่วมสนุกกับการเล่นในวันปีใหม่ของญี่ปุ่นและการตำข้าวเหนียวโมจิ☆

【วันและเวลา】 วันเสาร์ที่10 มกราคม 2014 ตั้งแต่10 : 30 - 15 : 00น.

【สถานที่】 ฟริสเปสุมินามน ( ชั้น9 ตึกสีชมพูข้างๆโรงพยาบาลชิโดเบียวอิน )

【ผู้ที่ร่วมกิจกรรมได้】 นักเรียนชั้นประถมและนักเรียนชั้นมัธยมต้นและครอบครัวของนักเรียน

【ค่าเข้าร่วม】 คนละ 300เยน ※กำหนดรับสมัครถึงวันพฤหัสบดีที่8 มกราคม

ต้องการรับสมัครผู้ปกครองที่ช่วยงานเป็นอย่างมาก

( รายละเอียดงาน : เตรียมอาหารและเจ้าหน้าที่ดูแลเด็ก )



<วิธีสมัคร> กรุณายื่นใบสมัครที่อยู่ด้านหลังที่แนบกรับเรื่องโดยตรงหรือ ส่งแฟกซ์หรือจะส่งอีเมลก็ได้

ที่รับสมัคร : ฟริสเปสุมินามน ( ชั้น9 ตึกสีชมพูข้างๆโรงพยาบาลชิโดเบียวอิน )

แฟกซ์ : 045 - 243 - 6 8 4 1 อีเมล : [minami@yccas.org](mailto:minami@yccas.org)

( กรุณากรอกข้อมูลดังต่อไปนี้ ชื่อและนามสกุล ชื่อโรงเรียน ชั้นปี ที่อยู่ เบอร์โทรศัพท์ที่ติดต่อได้และ อีเมล )

# 地域イベントあちこちツアー！！

## その1. 光のぶろむなあと

つく かざ いっしょ さんか  
☆作って飾って一緒に参加しよう！アートイベントツアー☆

【日時】2014年12月13日(土) 14:00 ~ 16:00

【集合場所】蒔田公園内 日枝小学校キッズクラブ前 13:50集合

【対象】小・中学生 および ご家族 【参加費用】無料

※イベント自体は、13日(土)・14日(日) 16:00 ~ 20:00であります。

※予約必要—12月11日(木)まで



## その2. 横浜橋通商店街でお店の人のはたらいている姿を見よう！

じもと しょうてんがい じぶんたち も あ  
☆地元の商店街を 自分達で盛り上げよう☆

【日程】2015年1月31日(土), 2月14日(土), 2月21日(土), 2月28日(土) 時間未定

※全日程参加必須です。詳しくは近くなりましたらご案内します。

【場所】横浜橋通商店街(横浜市南区高根町1-4)

【対象】小学生(3年生以上)、中学生、高校生 【参加費用】無料



## その3. こども新年会 2015



にほん しょうがつあそび たの もち  
☆日本のお正月遊びをみんなで楽しもう！餅つきもするよ☆

【日時】2015年1月10日(土) 10:30 ~ 15:00

【場所】フリースペースみなみ (南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設9F)

【対象】小・中学生 および ご家族 ※予約必要—1月8日まで

【参加費用】1人300円

保護者の方のお手伝いを、大募集しております！！

(お手伝い内容：ご飯準備・こども遊びスタッフなど)



もう こ ほうほう  
＜お申し込み方法＞

窓口かFAXにて裏面の申込書をご提出ください。メールでもお受けしております。

ツアー受付：フリースペースみなみ (南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設9F)

FAX：045-243-6841

E-mail：[minami@yccas.org](mailto:minami@yccas.org) (氏名、学校名、学年、住所、連絡先、メールアドレスをご記載ください)



# 参观横滨桥商店街店铺人家的 工作样子

通过在商店街店铺里的具体工作体验，了解什么叫做「劳动」！  
大家一起出主意，想办法，看看能为那家店做些什么！

～全日程共四次～

1/31（周六）12：20-15：30

「在商店街打工看看」

2/14（周六）14：00-15：30

作战会议・准备①

<设想在店里能做的事>

2/21（周六）14：00-15：30

作战会议・准备②

2/28（周六）13：30-16：00

<根据起草内容不同而不同>

「实现你的创新」

☆ 店名请参考背面

对象：

住在横滨市的小学3年级学生～中学生

集合・解散地点：

横滨市南区浦舟町3-46浦舟複合福祉施設9F

报名方法：

电话或邮件 1/28截止

电话：

045-243-3739（周二～周五 10点-17点）

e-mail: minami@yccas.org

限定人数：

12名（人员满额时结束）



主催 横浜橋プロジェクト(横浜市立大学 三輪研究室・滝田研究室)

特定非営利活動法人 教育支援協会 フリースペースみなみ

協力 横浜橋通商店街協同組合

みなみ青少年地域活動拠点 南区青少年地区活動地点

# フリースペースみなみ

大家的自由空間

各項目全部

各プログラム1回ずつ無料で体験できます!

無料体験1回!!

対象:小学1年生~中学3年生

## ものづくり(制作物)

火曜日・水曜日 周二・周三

16:00 ~ 17:00 / 17:30 ~ 18:30



## イングリッシュ(英語)

周二火曜日: 17:30 ~ 18:30

周四木曜日: 16:00 ~ 17:00



## マンガ(漫画)

金曜日 星期五

16:00 ~ 17:00 / 17:30 ~ 18:30



## (星期六的活動) フリスぺサタデー

土曜日: 午前 or 午後  
上午 下午  
(イベントにより異なります)  
根据活動不同



諮詢

### 諮詢時間

お問い合わせ 受付時間: 10:00~17:00 (火~金)

住所: 南区浦舟町3-46浦舟複合福祉施設9F

電話: 045-243-3739

FAX: 045-243-6841

Mail: minami@yccas.org

みなみ青少年地域活動拠点 南区青少年地区活動地点

# フリースペースみなみ

大家的自由空間

各項目全部

各プログラム1回ずつ無料で体験できます!

無料体験1回!!

対象:小学1年生~中学3年生

## ものづくり(制作物)

火曜日・水曜日 周二・周三

16:00 ~ 17:00 / 17:30 ~ 18:30



## イングリッシュ(英語)

周二火曜日: 17:30 ~ 18:30

周四木曜日: 16:00 ~ 17:00



## マンガ(漫画)

金曜日 星期五

16:00 ~ 17:00 / 17:30 ~ 18:30



## (星期六的活動) フリスぺサタデー

土曜日: 午前 or 午後  
上午 下午  
(イベントにより異なります)  
根据活動不同



諮詢

### 諮詢時間

お問い合わせ 受付時間: 10:00~17:00 (火~金)

住所: 南区浦舟町3-46浦舟複合福祉施設9F

電話: 045-243-3739

FAX: 045-243-6841

Mail: minami@yccas.org



# こども新年会 2015



来る2015年1月、フリースペースみなみで『こども新年会』を開きます。土曜日の時間をたっぷり使って、餅つきをしたり、正月の子ども遊びを通して、地域の大人と子供たちの繋がりをつくることを目的としています。もちろんお友達を誘っての参加も大歓迎です。ご家族揃って是非ご参加ください。

なお保護者の皆さままでお手伝いいただける方を募集しておりますので、ご協力いただける方は窓口やお電話などでお申し出ください。

## ☆詳細

【日時】2015年1月10日(土)

【場所】南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設9F

フリースペースみなみ

【集合】11:50(餅つきをする子 10:30)

【対象】小・中学生 および 保護者

【参加費用】1人 300円(幼児無料)

※費用は当日受付にて頂戴いたします。

【お申し込み】※期限1/8(木)まで

フリースペースみなみに、メールか FAX (裏面送信表)にてお申し込みください。その際、餅つきに参加するかどうかをお選びください。

メール：[minami@yccas.org](mailto:minami@yccas.org)

※メール環境のない方は、お問い合わせください。

【お問い合わせ】 ☎:045-243-3739

※餅つきは申込みが多数の場合、先着順とさせていただきます。

※当日はお皿・お椀・コップ・おはしを持参でお願いします。持参した食器につきましては、お持ち帰りをお願いしております。



## ☆プログラム

10:30~11:30 餅つき体験

※希望者多数の場合、先着とさせていただきます。

※保護者のみなさんは、ぜひごはん作りのお手伝いをお願いします。

12:00~12:30 お昼ごはん

12:30 始めの言葉

12:45 お正月遊び

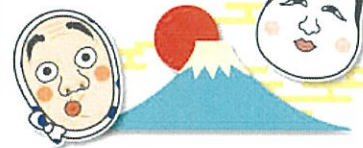
14:45 閉会式

15:00 解散

カルタ取り、双六、福笑いなどお正月遊びをみんなで楽しみましょう!



新春



## ☆フリースペースみなみについて

「フリースペースみなみ」は2005年に横浜市南区が設置し、NPO教育支援協会が運営している子どもたちの居場所です。ここでは『体験から学ぶ』ことを合言葉にして、放課後や土曜日の時間に様々なプログラムを実施しています。このプログラムを通して、☆人から認められる経験☆地域の大人との関わり☆他学校および異学年の子どもたちとの交流を実感してもらいたいと考えております。

お問い合わせいただければ活動内容の紹介もさせていただきますので、ぜひ「フリースペースみなみ」に遊びに来て、体験してください!なお、平日のプログラムは、おもしろサイエンス・放課後イングリッシュ・創作活動・素読暗唱・シェルパ(自主学習)、クッキング、マンガ研究会です。土曜日は、毎週違ったプログラムを実施しております。

裏面 FAX送信表

